

府営住宅 「要援護者見守りシステム」のあり方調査

報 告 書

府営住宅「要援護者見守りシステム」のあり方調査 報告書

目 次

はじめに

1. 入居者実態把握調査	1
(1) 地域の概況	
(2) 現状の活動	
① 赤い布運動	
② 月1回の健康チェックと「ふれあい喫茶」	
(3) 公営集合住宅入居者実態把握のためのアンケート	
① 目的、対象、実施方法	
② 調査結果に基づく分析と考察	
③ 大阪府社協「公営集合住宅における要援護者見守りシステム構築事業」との比較	
(4) 府営住宅「要援護者見守りシステム」のあり方調査 意見交換会概要	
2. まとめ	45
(1) 孤立・孤独死を巡る地域福祉の状況	
(2) 楠風台地区の課題	
3. 今後の取り組み	49
(1) 今後の地域での取り組みの視点	
(2) 具体的な提案	
4. 資料編	53
○普段の生活での困りごとアンケート調査票	
○普段の生活での困りごとアンケート調査単純集計結果	
○普段の生活での困りごとアンケート調査 問12自由記載欄まとめ	
○府営住宅「要援護者見守りシステム」のあり方調査 意見交換会	
○ふれあい喫茶（血圧測定）案内ビラ	
○もちつき大会案内ビラ	
○大阪府社協機関紙「福祉おおさか」（3/1号）	

はじめに

単身高齢者や高齢者のみの世帯が増加している中で、都市部を中心に地域から孤立した状態で高齢者が死亡する事例等が社会問題となっている。

単身高齢者及び高齢者のみの世帯の増加の一方で、近所付き合いが希薄化し、地域のコミュニティ活動にも支障が生じている。

今回の事業は、集合住宅における見守り活動の課題が顕著になってきているということと、大阪府の担当部署より、府営の集合住宅内における孤立・孤独死が著しく増えてきており、その対策が急がれるという課題提起をいただいたことがきっかけである。

こうしたことを背景として、「支援を要する高齢者」に対する支援のあり方、仕組み作りを検討するため、単身高齢者が多く、「孤独死」が発生したことを契機に自治会が自動的に取り組みを既に始めている府営楠風台住宅（富田林市）をモデル地域として選定し、当該地域の全入居者を対象としたアンケート調査を行った。その集計・分析を経て、大阪府社会福祉協議会が同時期に実施する「公営集合住宅における要援護者見守りシステム構築事業」や様々な先行事例や既存の取り組みを踏まえたうえで、当該地域の実情に応じた今後の取り組みを検討した。

なお、調査の実施にあたっては、アンケートの配付・回収や今後の取り組みの検討において、当該住宅の自治会の皆様に一方ならぬご協力を得た。また、調査の具体的な取り組みについては富田林市社会福祉協議会、府営楠風台地区福祉委員会と密接に連携し、アンケート調査の手法や今後の取り組みの検討等多岐に亘って度重なる意見交換を行うなど、相互に協力しながら調査を実施した。

ここに調査報告書をとりまとめることができたのは、これらの関係者の皆様の力添えがあつての賜物であり、深く感謝を申しあげる。

今後は、この調査結果や「公営集合住宅における要援護者見守りシステム構築事業」の結果をもとに、府内の市町村における集合住宅の共通課題について深め、今後の府内全体の孤立・孤独死の予防につなげていきたい。

本報告書の作成にあたり、分析・助言・まとめについては、大阪市立大学大学院看護学研究科の臼井キミカ教授並びに、大阪府立大学人間社会学部 小野達也准教授にお忙しい中にも関わらずご協力をいただき、深く感謝を申しあげる。

2009年3月

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会

1. 入居者実態把握調査

(1) 地域の概況

(2) 現状の活動

①赤い布運動

②月1回の健康チェックと「ふれあい喫茶」

(3) 公営集合住宅入居者実態把握のためのアンケート

①目的、対象、実施方法

②調査結果に基づく分析と考察

③大阪府社協「公営集合住宅における要援護者見守りシステム構築事業」との比較

(4) 府営住宅「要援護者見守りシステム」のあり方調査意見交換会概要

(1) 地域の概況

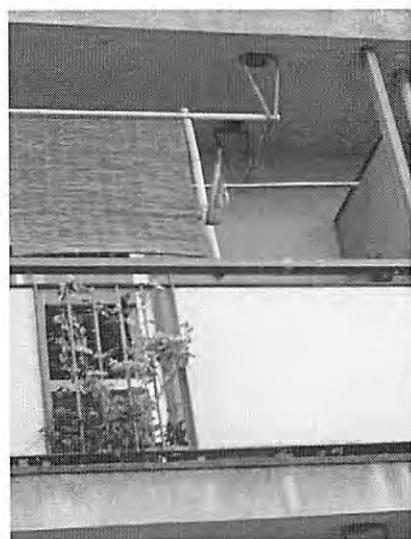
- 府営楠風台地区の人口・世帯数（平成 20 年 4 月 1 日現在）

人口 974 人

世帯 509 世帯

- 府営楠風台地区福祉委員会 平成 14 年 10 月設立

- 楠風台住宅の外観



(2) 現状の活動

① 赤い布運動

楠風台地区では、ここ数年、孤独死で発見される事例が3件ほどあり、大きな地域の問題となつた。

府営楠風台地区福祉委員会では、このような事が二度と地域から起こることがないようにと、その対策についての検討を深め、65歳以上の一人暮らし、夫婦世帯に赤い布を配布し、何事もなく元気で生活をしている証に、その赤い布を自宅のベランダに掲げてもらう「赤い布運動」に取り組んでいる。各棟に福祉委員協力員が2人配置されており、毎日見守り活動を実施している。

昨年、8月に孤独死された事例があり、11月からこの「赤い布運動」に取り組んでいる。

この運動を始めた時は、「他人にわざわざ65歳以上の高齢者が居住していることを知らせるようなもの」として、この運動に積極的でない住民の方もあったが、この運動を始めてから現在まで、孤独死の事例は1件も報告がなく、当初、積極的でなかった住民の方にも、今ではこの運動の大切さや重要性が理解されている。

また、行政から提供された名簿ではなく、自治会が自ら調査し作成した全住民の名簿を完備しており、住民全員にティッシュを配布する時など、様々な取り組みを通じて、住民一人ひとりの健康状態や生活状態が名簿に蓄積されている。

② 月1回の健康チェックと「ふれあい喫茶」

府営楠風台地区福祉委員会では、月1回、近くの医院の医者をボランティアで集会所に来てもらい、地区住民の血圧測定や聴診器での診察を実施する取り組みをしている。参加した住民には、個々の健康状態が記録できる健康手帳が発行され、病気の予防など大きな役割を果たしている。

また当日は、コーヒーと紅茶を無料で用意し、血圧測定だけでなく地域住民が集まる「ふれあい喫茶」も開設し、毎回30人ほどの住民が参加している。

毎年12月には、地域住民による「ふれあいもちつき大会」を集会所で開催し、地域住民の交流を深めている。ついたおもちは、その場で振舞われるほか、各家庭に5個ずつ配布されている。

自治会活動も活発で、夏には集会所前広場で「盆踊り大会」が開催され、夜店も出店され、地区的子ども達にとっても楽しみな行事となっている。

春には「花見会」が開催され、地区の高齢者の方が多数参加し、花を見ながら飲食を共にし交流を深めている。

(3) 公営集合住宅入居者実態把握のためのアンケート

① 目的、対象、実施方法

(目的)

全国的に、公営集合住宅における「孤立・孤独死」の報告が増えてきており、地域福祉を推進する各関係機関・団体及び関係者にとって大きな課題となっている。

大阪府内の公営集合住宅においても、「孤立・孤独死」の報告が増加し、この課題についての対応策の検討や、福祉関係機関との連携のもと、府営住宅の管理を通じて地域の皆様が安心して生活ができるよう、地域福祉の更なる発展につながる方策について検討を進めるために、次のような調査を実施した。

この事業対象となった、富田林市楠風台地区で、地域住民の方々が、普段の生活の中でどのような悩みや要望を持っておられるか、また、地域に対してどのような思いがあるか、どのような地域にしていきたいと考えておられるかを、「普段の生活での困りごとアンケート」の調査を実施することにより明らかにし、「孤立・孤独死」の防止を含め、要援護者を守るシステムづくり、福祉の町づくりについて検討するための基礎資料として活用する。

(対象)

配布対象：楠風台地区内の府営住宅、合計 315戸

有効回収数：178 (回収率 56.5%)

(実施方法)

配布方法：自治会で配布

回収方法：アンケートに同封した封筒を自治会班長へ提出

②調査結果に基づく分析と考察

大阪市立大学大学院看護学研究科教授 眞井 キミカ

1. 調査対象者の概要

生活に関するアンケートの回収数は183人でしたが、5人分はアンケートへの記入が全くなかったため、5人を除いた178人を今回の調査分析対象としました。なお、アンケートの回収率を府営楠風台住宅団地の戸数315戸に占める割合から算出すると56.5%になります。

178人の性別内訳は、男性71人(39.9%)、女性96人(53.9%)、不明11人(6.2%)でした。また、年齢では、60歳代が最も多く67人(37.6%)、次いで70歳代56人(31.5%)、50歳代20人(11.2%)の順に多くなっており、60歳代以上が134人(75.3%)と回答者の4分の3を占めていました。ちなみに回答者の年齢を各年代の中央値と仮定して平均年齢を算出すると、全体の平均年齢は65.7歳(標準偏差:12.3歳)であり、性別でみると男性は66.3歳(標準偏差11.1歳)、女性は65.1歳(標準偏差13.3歳)であり、男性の年齢が有意に高くなっていました($P<0.05$)。

図1 性別割合

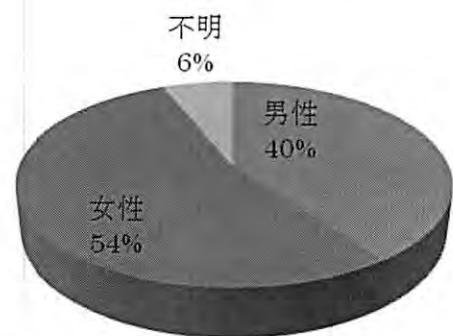


図2 年代別割合

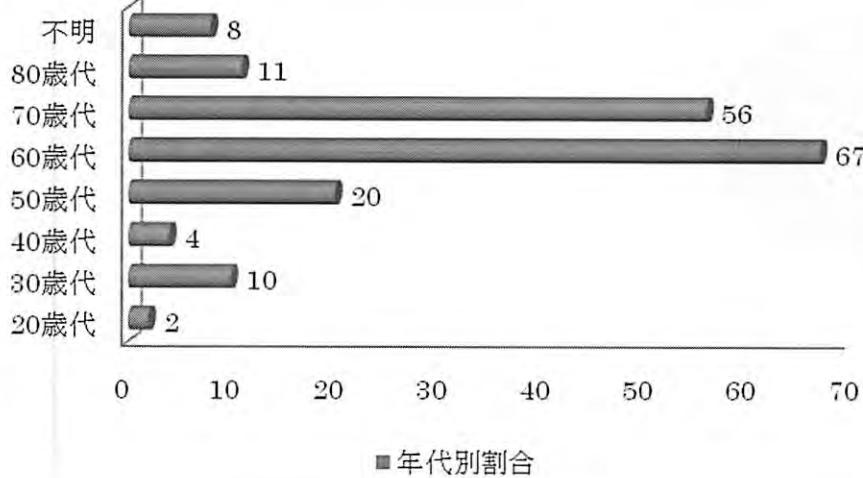
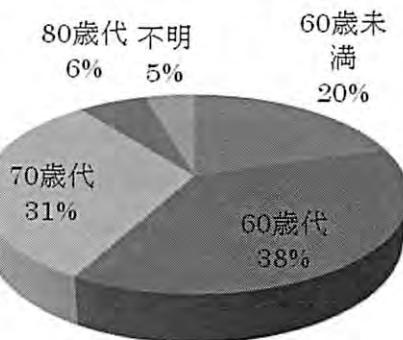
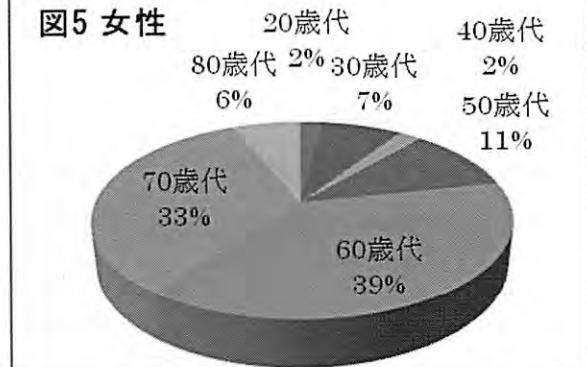
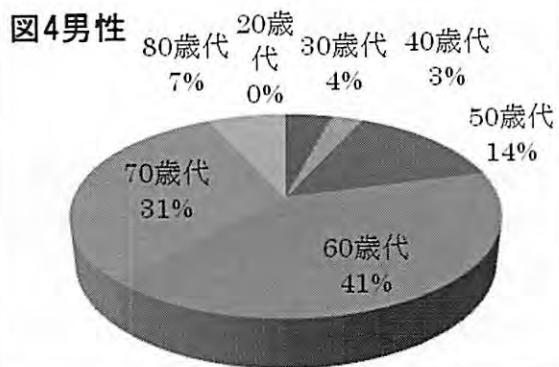


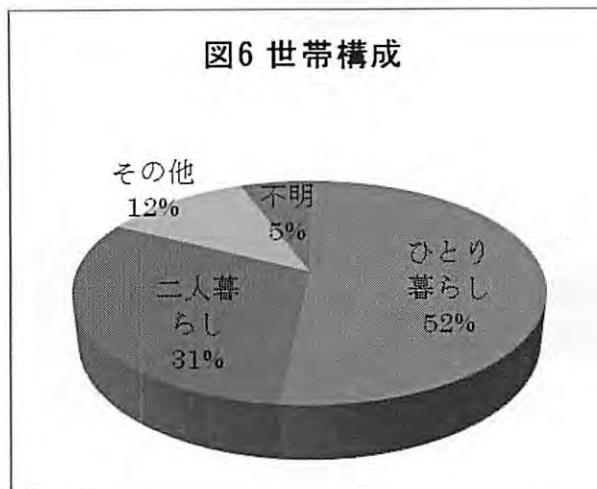
図3 年代別割合

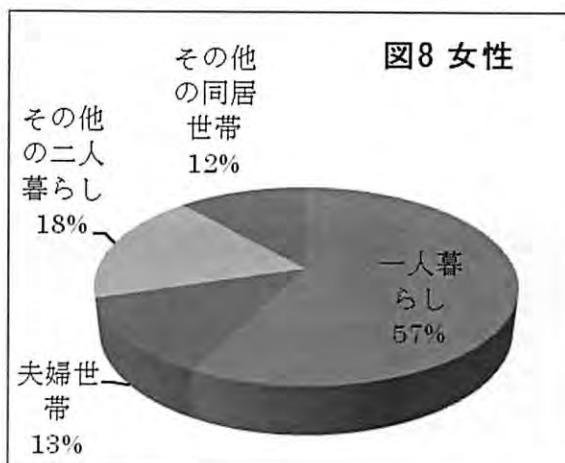
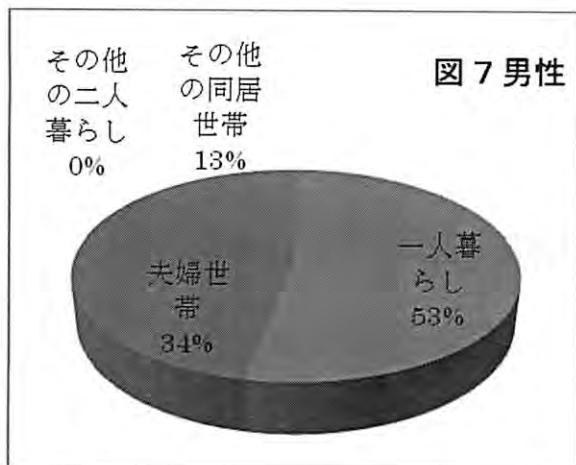


世帯状況をひとり暮らし、二人暮らし、その他の3つに分けると、ひとり暮らしが最も多く92人(51.7%)、次いで二人暮らし55人(30.9%)であり、ひとり、または二人の世帯構成を合わせると147人(82.6%)であり、全世帯の8割以上を2人以下の世帯が占めていました。

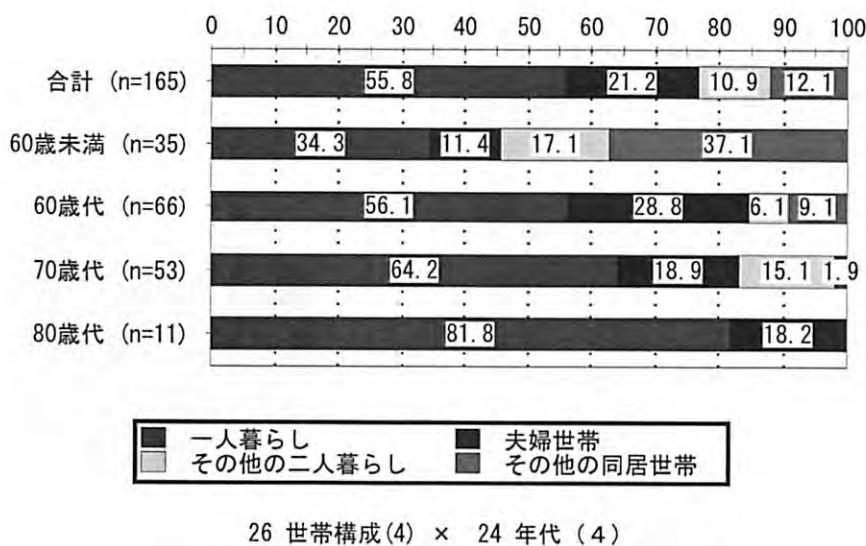
性別で世帯構成をみると、ひとり暮らしは男性36人(52.9%)、女性は54人(57.4%)でしたが、二人暮らしは男性ではすべて夫婦世帯28人(33.8%)であったのに対して、女性では夫婦世帯12人(12.8%)、その他の二入暮らし17人(18.1%)と性別によって構成割合が異なっていました。

同居者の内訳(複数回答)では配偶者が最も多く47人(26.4%)、次いで子ども35人(19.7%)であり、その他には母親と兄弟姉妹がそれぞれ2人(1.1%)、孫1人(0.6%)でした。





世帯構成を年代別にみると、ひとり暮らしは加齢に伴ってその割合が高くなっています。逆に他の同居世帯は加齢に伴って減少していました。



2. 健康状態

本人と家族の健康状態について複数回答で質問しました。「健康である」と回答したのは58人(32.6%)と全体のほぼ3分の1を占めています。その他には「治療中の病気やケガがあり通院している者がある」65人(36.5%)が多く、次いで「障がい手帳の所持者がいる」32人(18.0%)であり、全体のほぼ2割が障がい者手帳を所持していました。またその他には、「治療の必要はないが体調不良の者がある」19人(10.7%)、「治療はしていないが病気がある者がいる」9人(5.1%)、「常時介護を必要としている人がいる」8人(4.5%)と回答していました。

この質問で、健康と回答した人と、何らかの疾病や障がい等がある人に2分すると、回答者のうちの103人(57.9%)、すなわち全体の6割弱は、何らかの疾病や障がい等があるなど健康上の問題を抱えていることが明らかになりました。

また、健康と回答した人の割合を性別でみると、男性は26人（36.6%）、女性は32人（33.3%）であり、障がい手帳所持者の内訳は男性11人（15.5%）、女性18人（18.8%）でした。

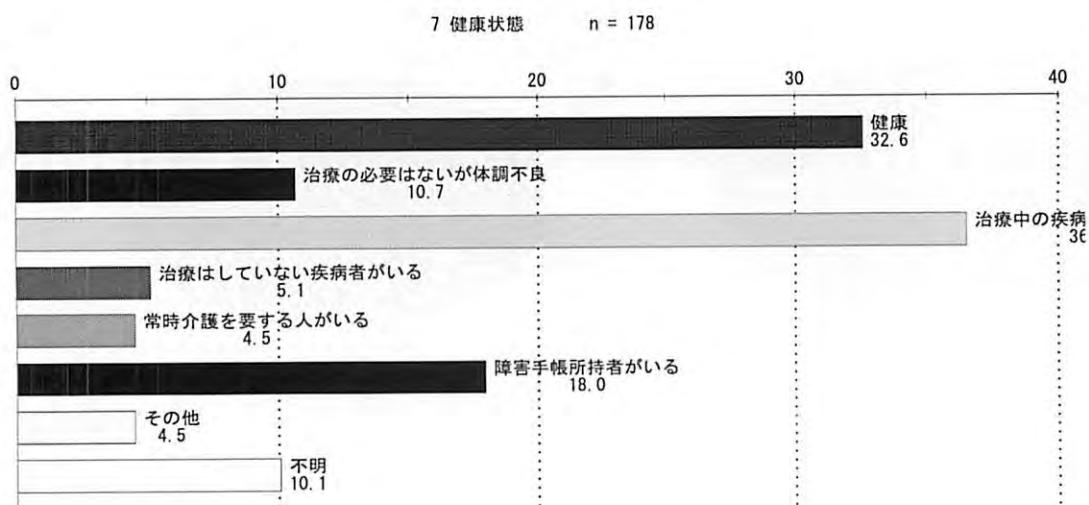
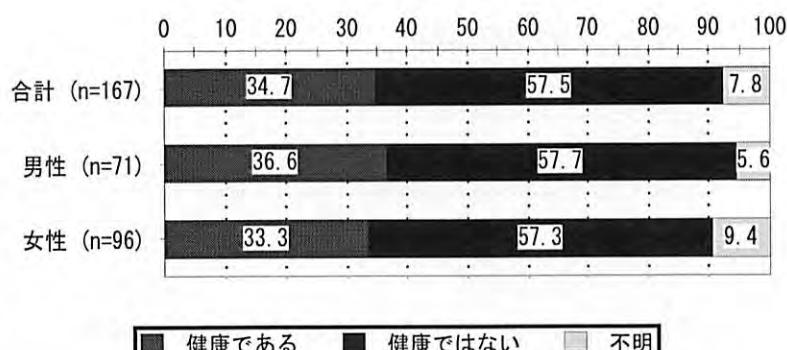
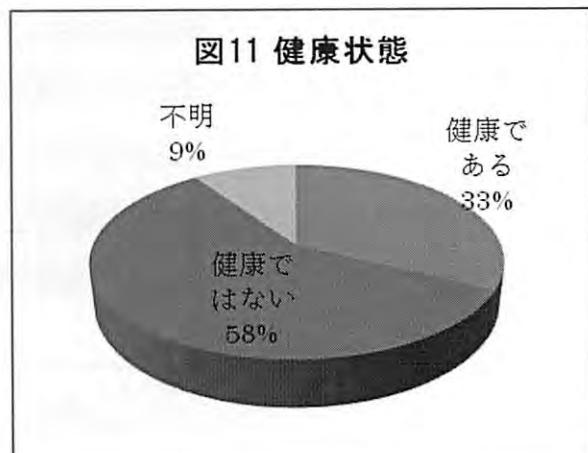


図 10 健康状態

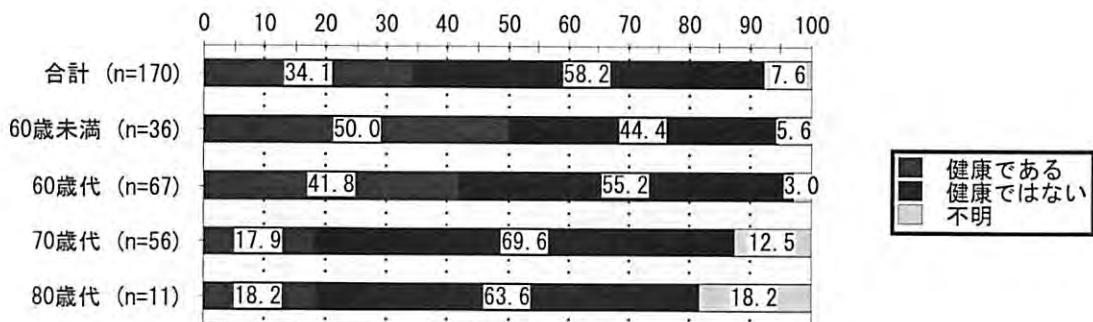
表 1 健康状態

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	健康	58	32.6	36.3
2	治療の必要はないが体調不良	19	10.7	11.9
3	治療中の疾病があり通院中	65	36.5	40.6
4	治療はしていない疾患者がいる	9	5.1	5.6
5	常時介護を要する人がいる	8	4.5	5.0
6	障害手帳所持者がいる	32	18.0	20.0
7	その他	8	4.5	5.0
	不明	18	10.1	
	サンプル数(%)	178	100.0	160



40 健康 (2) × 3 性別

図 12 性別健康状態

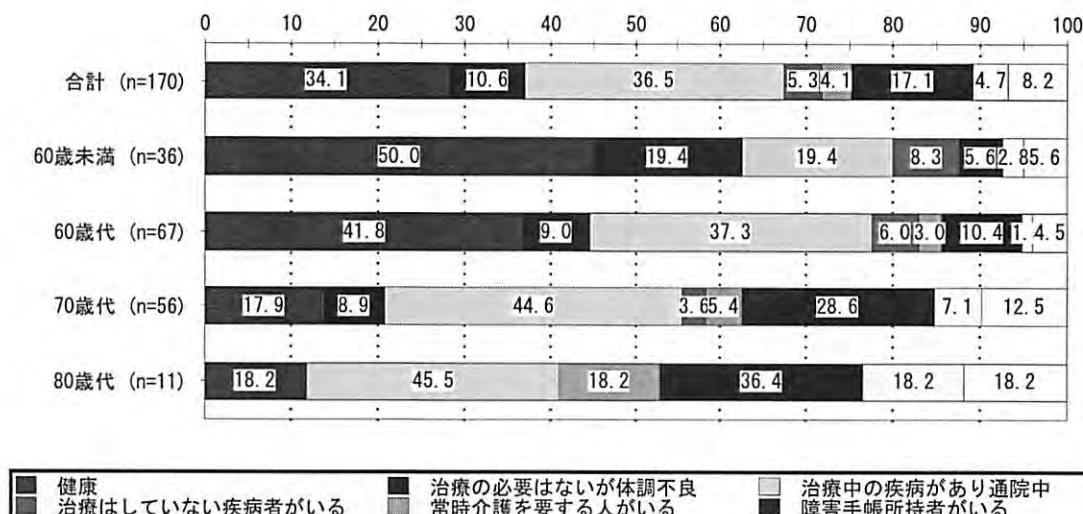


40 健康 (2) × 24 年代 (4)

図 13 年代別健康状態

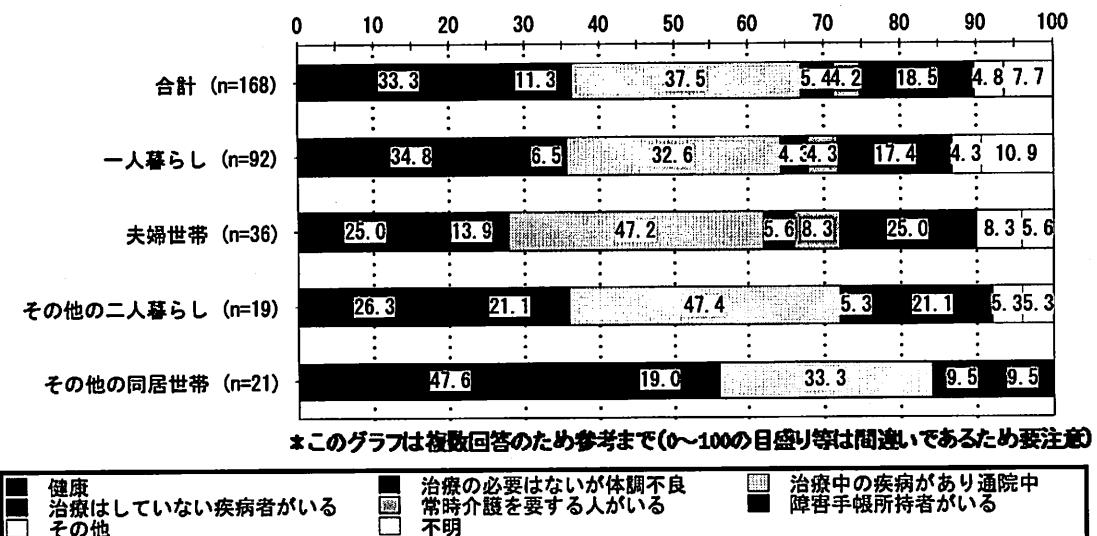
次に健康と回答した人を年代別でみると、加齢に伴って健康であると回答した割合は有意に減少し、「障がい手帳所持者がいる」と回答した割合、および「治療中の病気やケガがあり通院している者がいる」と回答した割合は逆に加齢に伴って増加していました。

また、健康状態と世帯構成との関連を検討した結果、健康と回答した割合が最も低かったのは夫婦世帯を含む二人暮らし 14 人 (25.5%) であり、その他、夫婦世帯を含む二人暮らしでは「治療中の疾病があり通院中」26 人(47.3%)、障がい者手帳所持者がいる 13 人 (23.6%) とそれぞれその割合が最も高くなっていました。



7 健康状態 × 24 年代 (4)

図 14 年代別健康状態



7 健康状態 × 26 世帯構成(4)

図 15 世帯構成別健康状態

障がい者手帳の所持者がいると回答した人は 32 人 (18.0%) であり、その内訳は身体障害者手帳は 27 人、療育手帳は 1 人、精神障がい者保健福祉手帳は 3 人でした。なお、手帳の等級については、多かった順に 1 級と 4 級がそれぞれ 7 人、2 級 5 人、3 級と 6 級がそれぞれ 3 人、5 級 1 人であり、療育手帳では A が 1 人でした。(文中の人数、%は単純集計数値を使用)

36 障がい者手帳の種類 (MA)

No	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	身体障がい者手帳	27	15.2	93.1
2	療育手帳	1	0.6	3.4
3	精神障がい者保健福 祉手帳	3	1.7	10.3
	不明	149	83.7	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	29

表 2 障がい者手帳の種類

37 障がい者手帳の等級 (MA)

No	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1級	7	3.9	25.0
2	2級	5	2.8	17.9
3	3級	3	1.7	10.7
4	4級	7	3.9	25.0
5	5級	1	0.6	3.6
6	6級	3	1.7	10.7
7	A	1	0.6	3.6
8	B	0	0.0	0.0
9	C	0	0.0	0.0
10	精神障がい者保健福 祉手帳	3	1.7	10.7
	不明	150	84.3	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	28

表 3 障がい者手帳の種類と等級

3. 各種サービスの利用状況

サービスの利用状況を行政サービス、介護保険サービス、障がい者福祉サービスに分けてそれぞれ利用の有無を質問しました。利用者が多かった順に行政サービス 23 人 (12.9%)、障がい者福祉サービス 17 人 (9.6%)、介護保険サービス 14 人 (7.9%) でした。この割合を性別でみましたが、差は認められませんでした。

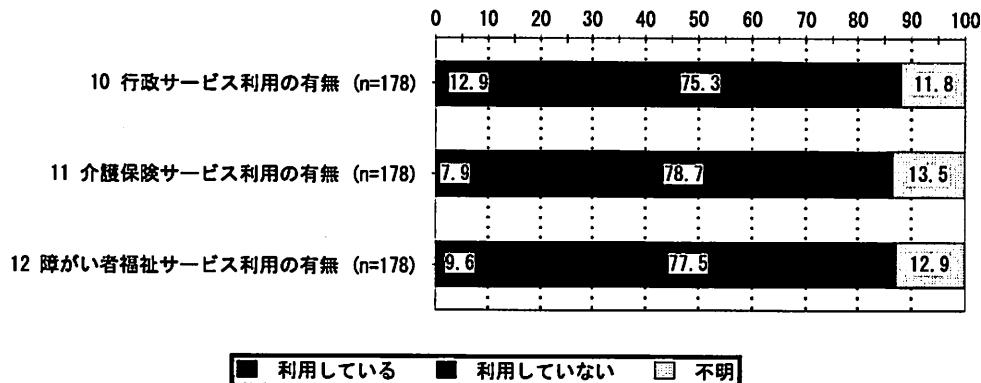


図 16 サービスの利用状況)

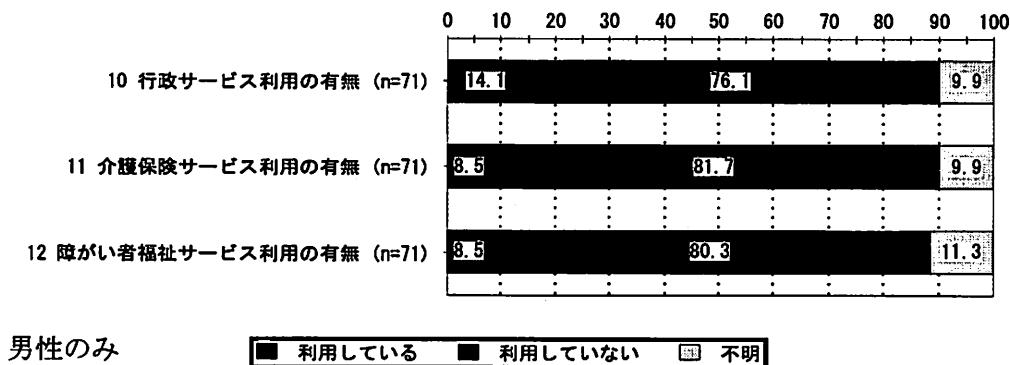


図 17 サービスの利用状況 (男性)

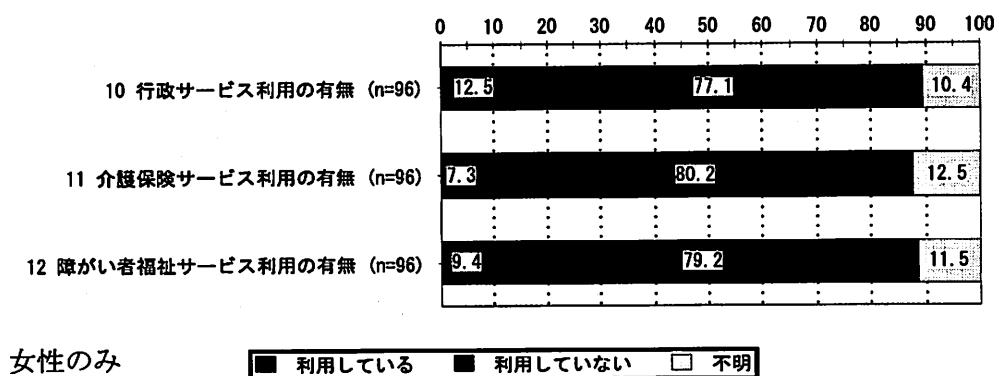
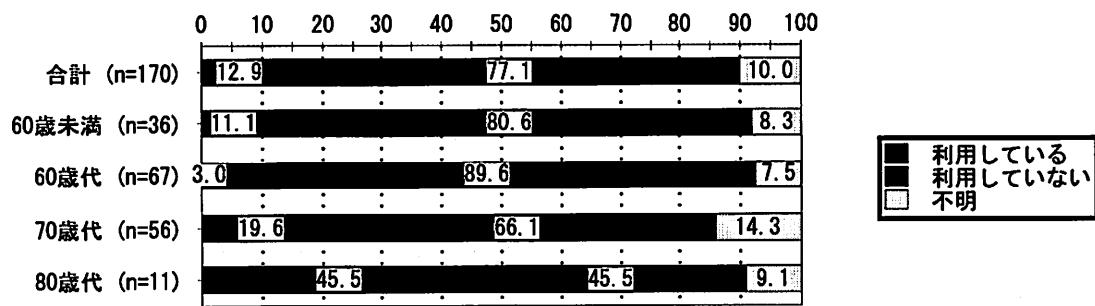


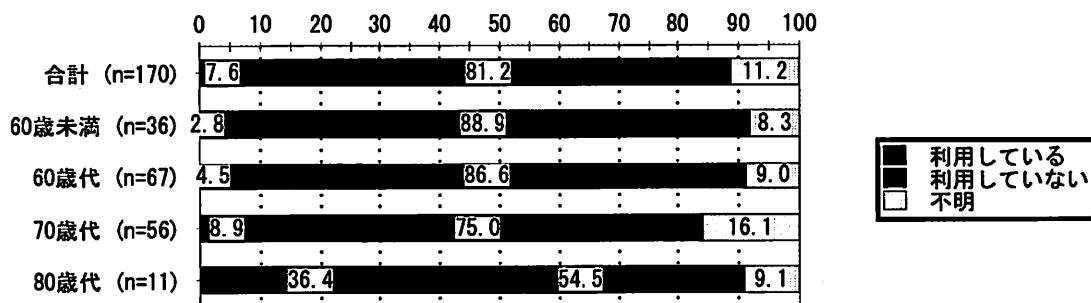
図 18 サービスの利用状況（女性）

また、これらのサービスの利用状況を年代別で見た結果、いずれのサービスも80歳代、70歳代の利用割合が高くなっています。80歳代以上では行政サービスは5人(45.5%)、介護保険サービスは4人(36.4%)、障がい者保健福祉サービス4人(36.4%)が利用していました。



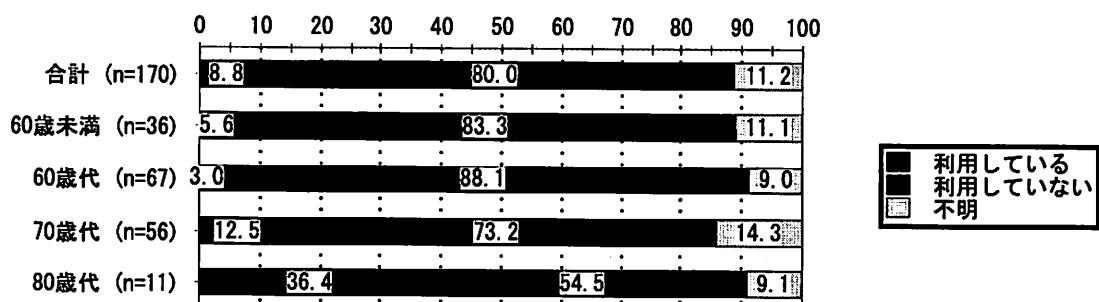
10 行政サービス利用の有無 × 24 年代 (4)

図 19 年代別行政サービスの利用状況



11 介護保険サービス利用の有無 × 24 年代 (4)

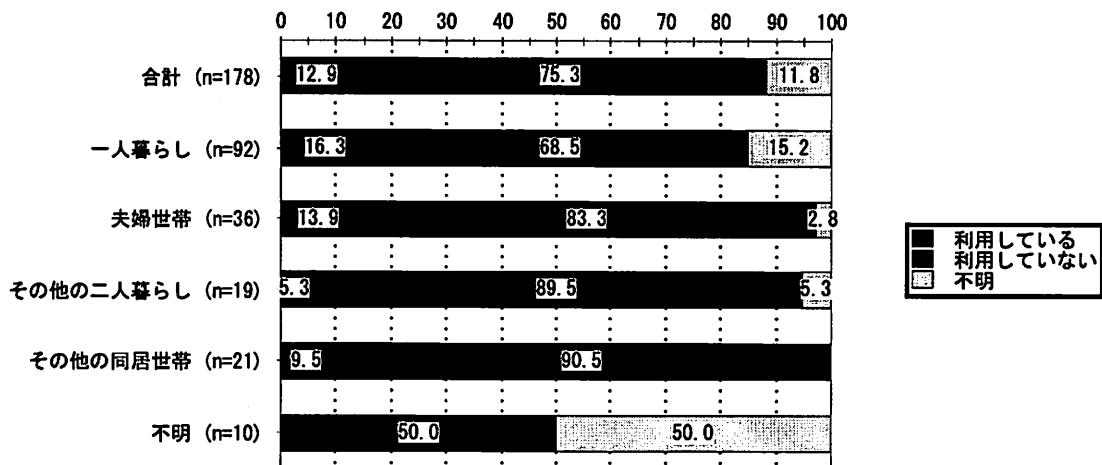
図 20 年代別介護保険サービスの利用状況



12 障がい者福祉サービス利用の有無 × 24 年代 (4)

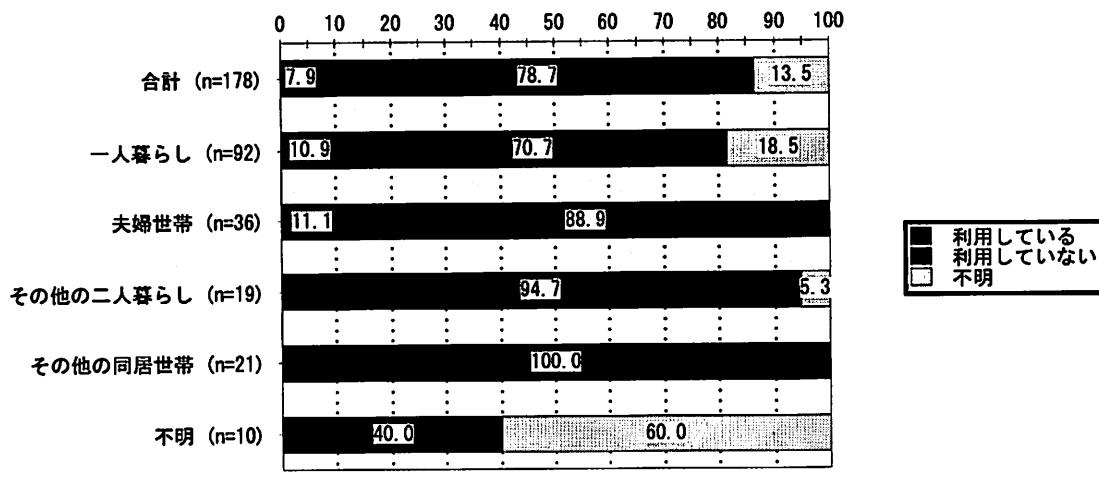
図 21 年代別障がい者福祉サービスの利用状況

次に各種のサービスの利用状況と世帯状況との関連を検討しました。行政サービスを最も多く利用していたのはひとり暮らし世帯 15 人 (16.3%) であり、障がい者保健福祉サービスでは夫婦世帯 7 人 (19.4%) でした。



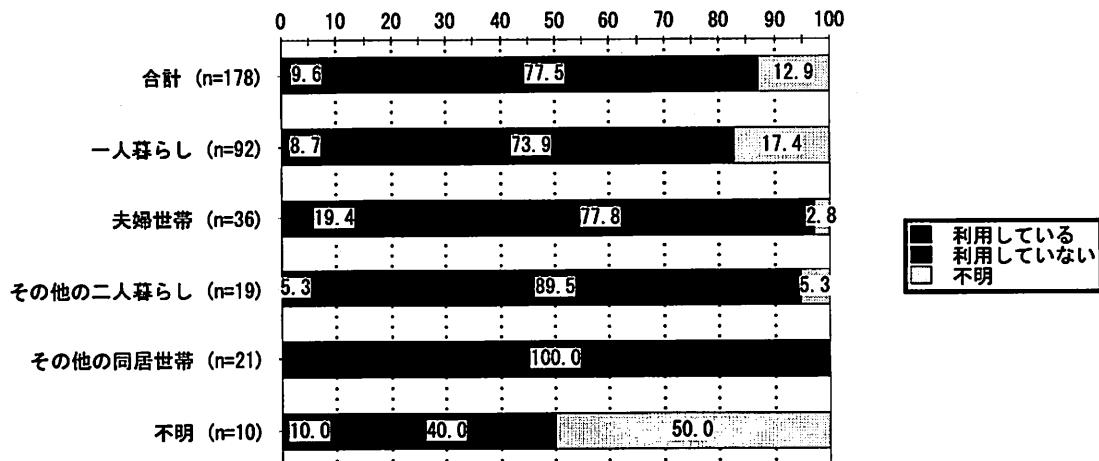
10 行政サービス利用の有無 × 26 世帯構成 (4)

図 22 世帯構成別行政サービスの利用状況



11 介護保険サービス利用の有無 × 26 世帯構成(4)

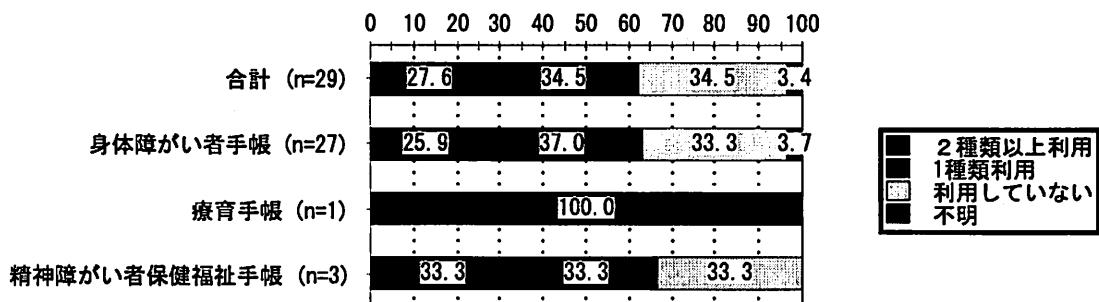
図 23 世帯構成別介護保険サービスの利用状況



12 障がい者福祉サービス利用の有無 × 26 世帯構成(4)

図 24 世帯構成別障がい者福祉サービスの利用状況

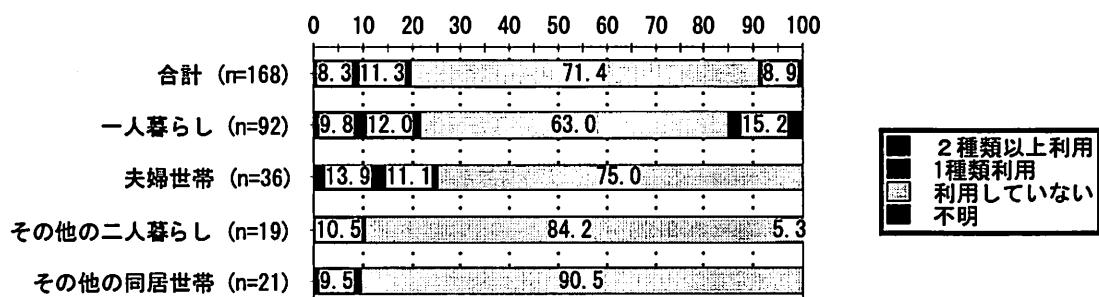
次に各種のサービスの利用状況と障がい者手帳の所持状況との関連をみました。「身体障がい者手帳を所持している」と回答した 27 人のうち、二種類以上のサービスを利用していたのは 7 人 (25.9%)、1 種類のみ利用は 10 人 (37.0%)、いずれのサービスも活用していなかったのは 9 人 (33.3%) であり、必ずしも各種のサービスを利用していないことが明らかになりました。



38 サービスの利用の数(3) × 36 障がい手帳の種類(MA)

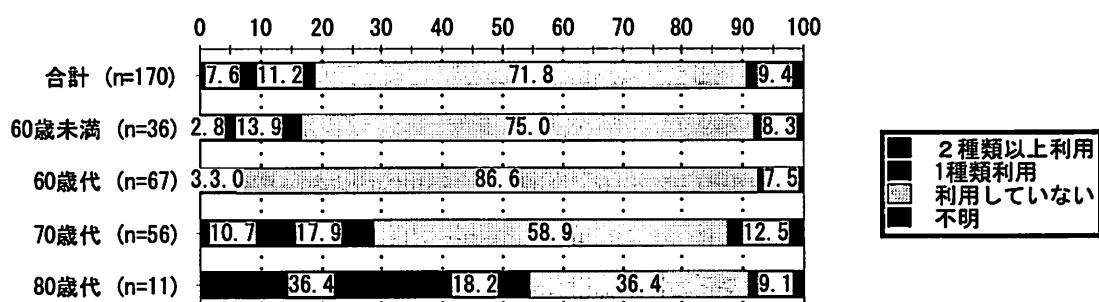
図 25 手帳の所持状況別サービスの利用状況

また、利用しているサービスの数と世帯状況との関連を検討しました。2種類以上のサービスを利用していると回答した割合は夫婦世帯5人(13.9%)が最も多く、逆にサービスを全く利用していない世帯では「その他の同居世帯」が19人(90.5%)でした。利用しているサービスの数と年代との関連では、二種類以上のサービスを利用している割合が最も高かったのは80歳代であり4人(36.4%)でした。サービスを全く利用していない割合が最も高かったのは60歳代58人(86.6%)でした。



38 サービスの利用の数(3) × 26 世帯構成(4)

図 26 世帯構成別サービスの利用状況



38 サービスの利用の数(3) × 24 年代(4)

図 27 年代構成別サービスの利用状況

4. 生活の中で不自由に感じていること

普段の生活の中で不自由に感じていることを複数回答で質問しました。「特になし」と回答した人は45人（25.3%）と全体の4分の1の人が不自由には感じていないと回答していました。しかし、この質問には回答していない人が25人（14.0%）ありましたので、不自由には感じていない割合は若干増加するのではないかと推察されます。しかしながらこのことは逆に108人（60.7%）の人は何らかの不自由を感じながら生活していることを意味しています。中でも不自由だと回答した人が多かったのは、「買い物」70人（39.3%）、「階段の上がり下り」49人（27.5%）、「通院などの外出」29人（16.3%）と回答しており、「階段昇降」や「買い物」、「通院」など外出に関連したことに多くの人が不自由を感じて生活しておられることが明らかになりました。

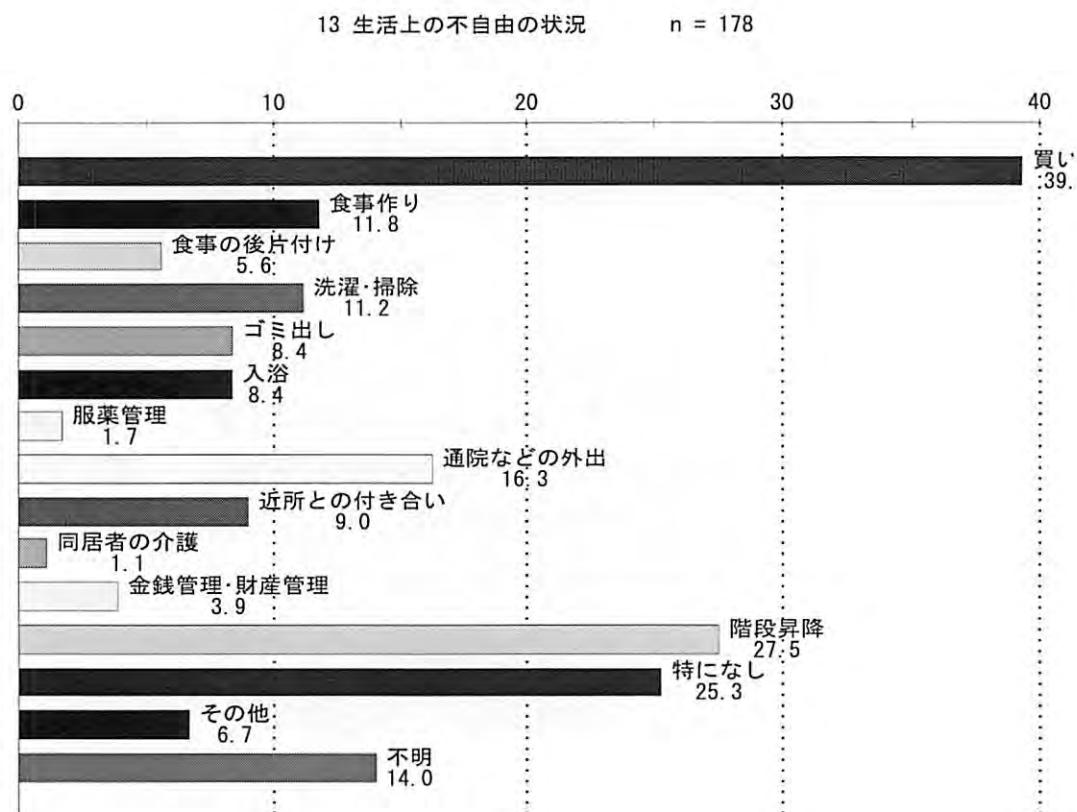
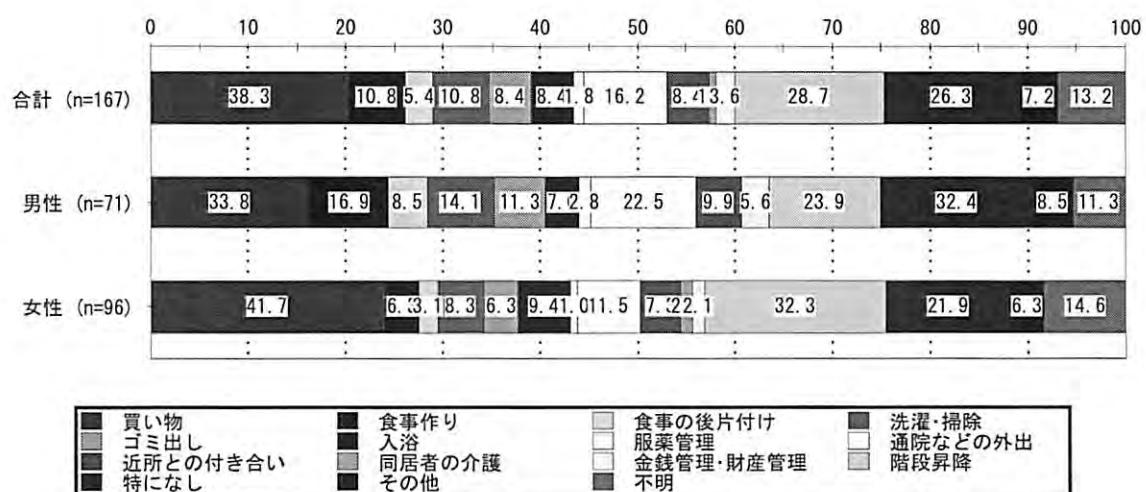


図 28 生活上の不自由の状況

「普段の生活の中で不自由に感じていること」と性別との関連を検討した結果、女性より男性にその割合が高かった項目は、「食事作り」12人（16.9%）、「ゴミ出し」8人（11.3%）、「通院などの外出」16人（22.5%）であり、逆に女性のその割合が高かったのは「買い物」40人（41.7%）、「階段昇降」31人（32.3%）でした。なお、「特になし」と回答した割合は男性23人（32.4%）、女性21人（21.9%）でした。



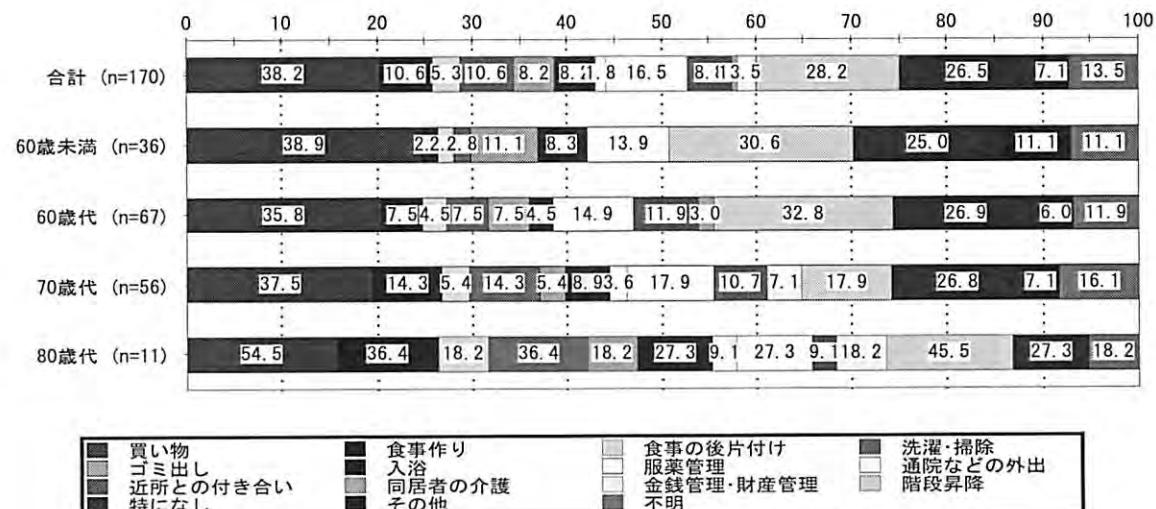
13 生活上の不自由の状況 × 3 性別

図 29 性別・生活上の不自由の状況

13 生活上の不自由の状況

		13 生活上の不自由の状況															
		合計	買い物	食事作り	食事の後片付け	洗濯・掃除	ゴミ出し	入浴	服薬管理	通院などの外出	近所との付き合い	同居者の介護	金銭管理・財産管理	階段昇降	特になし	その他	不明
3 性別	合計	167	64	18	9	18	14	14	3	27	14	2	6	48	44	12	22
	男性	71	24	12	6	10	8	5	2	16	7	-	4	17	23	6	8
	女性	96	40	6	3	8	6	9	1	11	7	2	2	31	21	6	14
		100.0	38.3	10.8	5.4	10.8	8.4	8.4	1.8	16.2	8.4	1.2	3.6	28.7	26.3	7.2	13.2
		100.0	33.8	18.9	8.5	14.1	11.3	7.0	2.8	22.5	9.9	-	5.6	23.9	32.4	8.5	11.3
		100.0	41.7	6.3	3.1	8.3	6.3	9.4	1.0	11.5	7.3	2.1	2.1	32.3	21.9	6.3	14.6

表 4 性別・生活上の不自由の状況



13 生活上の不自由の状況 × 24 年代 (4)

図 30 年代構成別・生活上の不自由の状況

「普段の生活の中で不自由に感じていること」の中で、加齢に伴って回答率が高くなった項目は「食事づくり」、「食事の後片付け」、「洗濯・掃除」、「通院などの外出」などの4項目でした。「特になし」と回答した割合は年代による差ではなく、いずれも年代も25~27%に止まっていました。

次に「普段の生活の中で不自由に感じていること」の回答数を算出しました。算出方法は回答者178人のうち、回答がなかった25人(14.0%)、「特になし」と回答した45人(25.3%)を除く何らかの不自由があると回答した108人(60.7%)を対象にして、それぞれの回答数をカウントしました。108人の平均回答数は2.5項目であり、これらの項目数と属性等との関連を検討しました。その結果、最も回答数が高かったのは性別では男性、年代別では80歳代以上、世帯構成ではひとり暮らし、利用サービスでは二種類以上のサービスを利用している人でした。

	件数	平均値	3 性別	
			男性	女性
31 生活上の不自由(N)	108	2.49	2.92	2.16

表5 性別・生活上の不自由の回答数

	件数	平均値	24 年代(4)			
			60歳未満	60歳代	70歳代	80歳代
31 生活上の不自由(N)	108	2.49	1.91	2.22	2.83	5.50

表6 年代別・生活上の不自由の回答数

	件数	平均値	26 世帯構成(4)			
			一人暮らし	夫婦世帯	その他の二人暮らし	その他の同居世帯
31 生活上の不自由(N)	108	2.49	2.78	2.35	1.36	2.19

表7 世帯構成別・生活上の不自由の回答数

	件数	平均値	38 サービスの利用の数(3)		
			2種類以上利用	1種類利用	利用していない
31 生活上の不自由(N)	108	2.49	4.38	2.31	2.14

表8 サービスの利用数別・生活上の不自由の回答数

5. 生活の中での不安や悩み

「日常の生活の中での不安や悩み」について複数回答で質問しました。前述の質問項目「生活上の不自由」とは異なり、不安や悩みが「特にない」と回答した人は 15 人 (8.4%) に過ぎず、約 8 割の人が何らかの不安や悩みを抱えていることがわかりました。回答数が多かった上位 5 位までは、「自分の健康」が 93 人 (52.2%)、「自分の老後」が 79 人 (44.4%)、「家計や経済的なこと」が 54 人 (30.3%)、「家族の健康」が 41 人 (23.0%)、「災害に関するここと」 32 人 (18.0%) の順でした。それ以外にも、「家族の老後」が 31 人 (17.4%)、「地域の安全」 26 人 (14.6%)、「看護や介護のこと」 23 人 (12.9%)、「近隣との人間関係」 18 人 (10.1%)、「自分の仕事のこと」 15 人 (8.4%)、「家族の仕事のこと」 10 人 (5.6%) なども見逃してはならないことです。

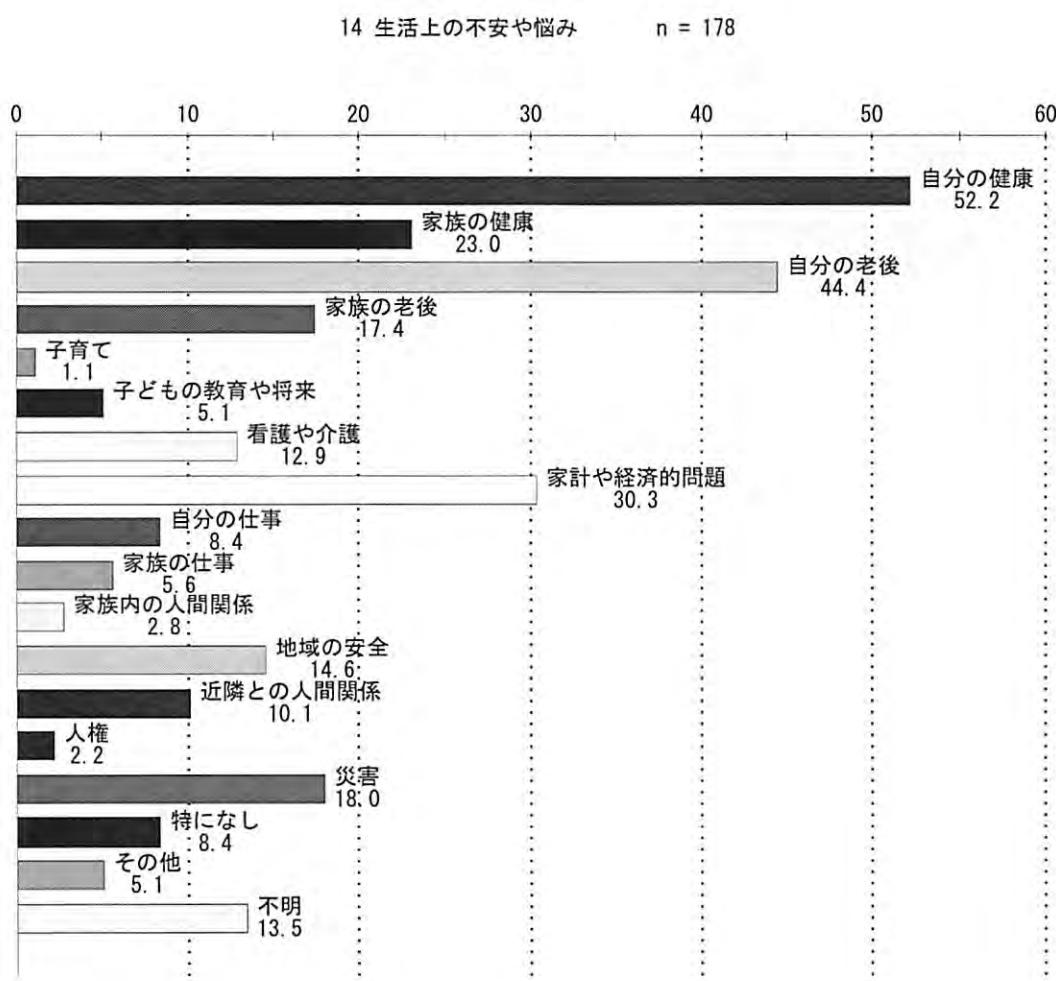


図 31 生活上の不安や悩み

「生活の中での不安や悩み」と性別との関連について検討した結果、「自分の健康のこと」、「家族の老後のこと」、「家計や経済的なこと」などは男性に多く、女性に多かった項目は特にありませんでした。しかし、「特になし」と回答した割合は女性 6 人 (6.3%) より、むしろ男性 9 人 (12.7%) にその割合が高くなっていました。

上段: 下段: %	14 生活上の不安や悩み																			
	合計	自分の健康	家族の健康	自分の老後	家族の老後	子育て	子どもの教育や将来	看護や介護	家計や経済的問題	自分の仕事	家族の仕事	家族の人間関係	地域の安全	近隣との人間関係	人権	災害	特になし	その他	不明	
合計	167	87	36	75	28	2	9	21	50	13	8	5	26	18	4	32	15	9	22	
性別	100.0	52.1	21.6	44.9	16.8	1.2	5.4	12.6	29.9	7.8	4.8	3.0	15.6	10.8	2.4	19.2	9.0	5.4	13.2	
	男性	71	42	15	33	15	1	3	9	26	8	2	2	13	9	3	15	9	2	6
	女性	96	45	21	42	13	1	6	12	24	5	6	3	13	9	1	17	6	7	16
	100.0	46.9	21.9	43.8	13.5	1.0	6.3	12.5	25.0	5.2	6.3	3.1	13.5	9.4	1.0	17.7	6.3	7.3	16.7	

表 9 性別・生活上の不安や悩み

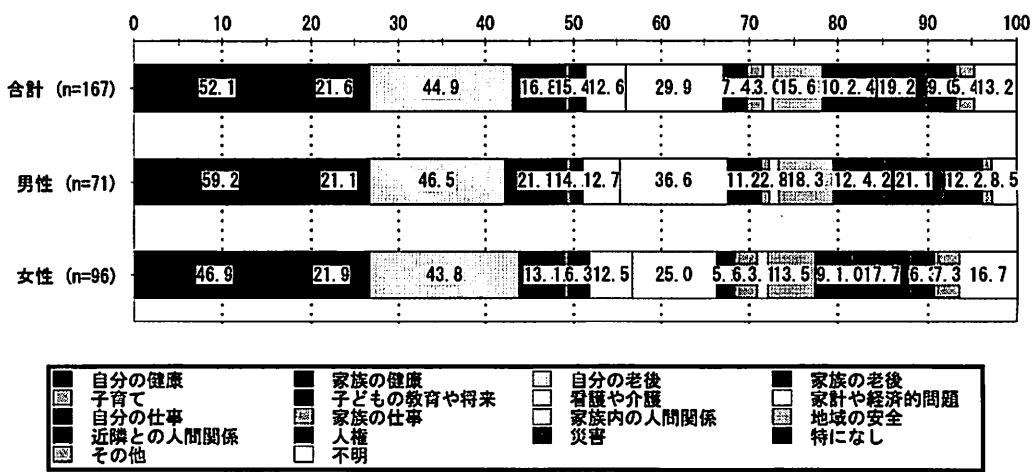


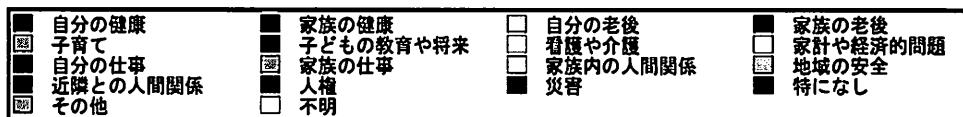
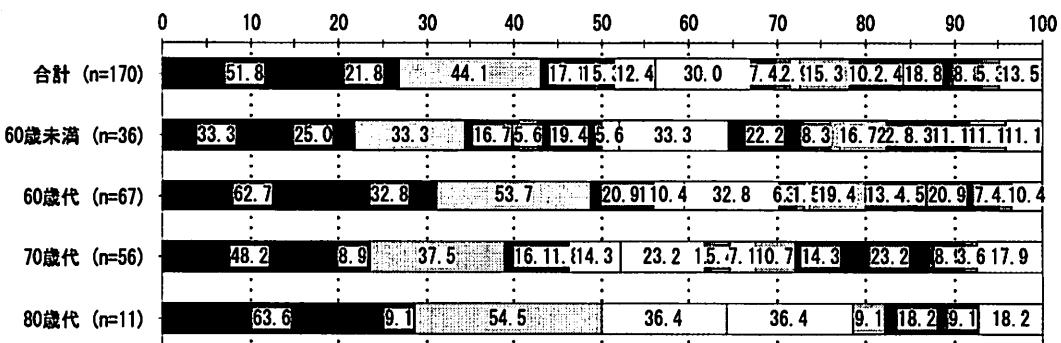
図 32 性別・生活上の不安や悩み

「生活の中での不安や悩み」と年代との関連について検討した結果、「自分の健康のこと」、「自分の老後のこと」、「看護や介護のこと」、「家計や経済的なこと」では80歳代が高く、「子どもの教育や将来のこと」、「自分の仕事のこと」では60歳未満で多くなっていました。

14 生活上の不安や悩み

上段: 下段: %	14 生活上の不安や悩み																		
	合計	自分の健康	家族の健康	自分の老後	家族の老後	子育て	子どもの教育や将来	看護や介護	家計や経済的問題	自分の仕事	家族の仕事	家族の人間関係	地域の安全	近隣との人間関係	人権	災害	特になし	その他	不明
合計	170	88	37	75	29	2	9	21	51	13	8	5	26	18	4	32	15	9	23
年代	100.0	51.8	21.8	44.1	17.1	1.2	5.3	12.4	30.0	7.6	4.7	2.9	15.3	10.6	2.4	18.8	8.8	5.3	13.5
	60歳未満	36	12	9	12	6	2	7	2	12	8	3	-	6	1	1	3	4	4
	100.0	33.3	25.0	33.3	16.7	-	5.6	19.4	5.6	33.3	22.2	8.3	-	16.7	2.8	2.8	8.3	11.1	11.1
	60歳代	67	42	22	36	14	-	1	7	22	4	2	1	13	9	3	14	5	3
	100.0	62.7	32.8	53.7	20.9	-	1.5	10.4	32.8	6.0	3.0	1.5	19.4	13.4	4.5	20.9	7.5	4.5	10.4
70歳代	56	27	5	21	9	-	1	8	13	1	3	4	6	8	-	13	5	2	10
	100.0	48.2	8.9	37.5	16.1	-	1.8	14.3	23.2	1.8	5.4	7.1	10.7	14.3	-	23.2	8.9	3.6	17.9
80歳代	11	7	1	6	-	-	-	4	4	-	-	-	1	-	-	2	1	-	2
	100.0	63.6	9.1	54.5	-	-	-	36.4	36.4	-	-	-	9.1	-	-	18.2	9.1	-	18.2

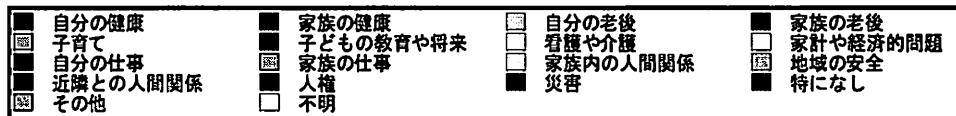
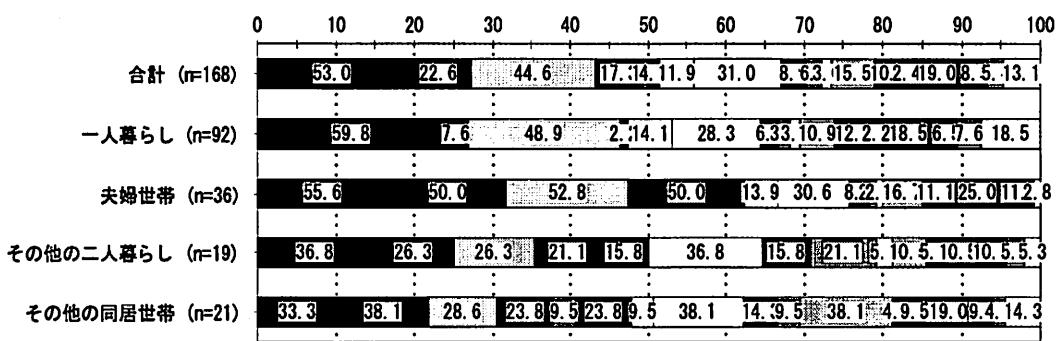
表 10 年代構成別・生活上の不安や悩み



14 生活上の不安や悩み × 24 年代 (4)

図 33 年代構成別・生活上の不安や悩み

「生活の中での不安や悩み」と世帯状況との関連について検討した結果、他の世帯状況に比して「ひとり暮らし」にその割合が高かった項目は「自分の健康のこと」や「看護や介護のこと」、「近隣との人間関係のこと」でした。また、「夫婦世帯」で高かった項目は「家族の健康のこと」、「自分の老後のこと」、「家族の老後のこと」、「災害に関するここと」で高くなっていました。その他の同居世帯で高かった項目は「地域の安全のこと」でした。



14 生活上の不安や悩み × 26 世帯構成(4)

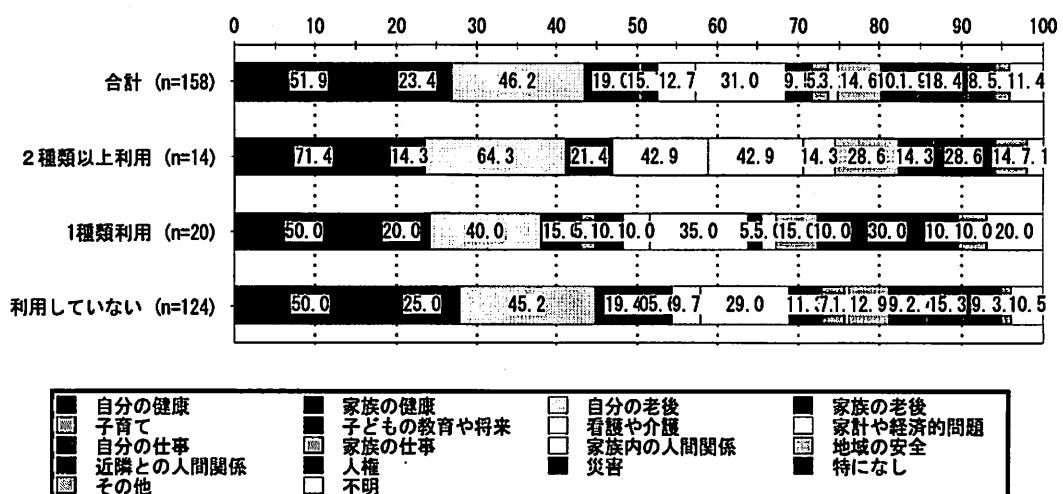
図 34 世帯構成別・生活上の不安や悩み

14 生活上の不安や悩み

上段:度数 下段:%	14 生活上の不安や悩み																		
	合計	自分の健康	家族の健康	自分の老後	家族の老後	子育て	子どもの教育や将来	看護や介護	家計や経済的問題	自分の仕事	家族の仕事	家族内の人間関係	地域の安全	近隣との人間関係	人権	災害	特になし	その他	不明
合計	168 100.	89 53.0	38 22.6	75 44.6	29 17.3	2 1.2	8 4.8	20 11.9	52 31.0	15 8.9	10 6.0	5 3.0	26 15.5	17 10.1	4 2.4	32 19.0	14 8.3	9 5.4	22 13.1
一人暮らし	92 100.	55 59.8	7 7.6	45 48.9	2 2.2	- -	- -	13 14.1	26 28.3	6 6.5	3 3.3	3 3.3	10 10.9	11 12.0	2 2.2	17 18.5	6 6.5	7 7.6	17 18.5
夫婦世帯	36 100.	20 55.6	18 50.0	19 52.8	18 50.0	- -	- -	5 13.9	11 30.6	3 8.3	1 2.8	1 2.8	6 16.7	4 11.1	- -	9 25.0	4 11.1	- -	1 2.8
その他の二人暮らし	19 100.	7 36.8	5 26.3	5 26.3	4 21.1	- -	3 15.8	- -	7 36.8	3 15.8	4 21.1	1 5.3	2 10.5	1 5.3	- -	2 10.5	2 10.5	1 5.3	1 5.3
その他の同居世帯	21 100.	7 33.3	8 38.1	6 28.6	5 23.8	2 9.5	5 23.8	2 9.5	8 38.1	3 14.3	2 9.5	- -	8 38.1	1 4.8	2 9.5	4 19.0	2 9.5	1 4.8	3 14.3

表 11 世帯構成別・生活上の不安や悩み

「生活の中での不安や悩み」と行政サービス等の利用状況との関連について検討した結果、2種類以上のサービスを利用していた群に高かった項目は、「自分の健康のこと」、「自分の老後のこと」、「家族の老後のこと」、「看護や介護のこと」、「家計や経済的なこと」、「家族内の人間関係のこと」、「地域の安全のこと」、「近隣との人間関係」などでした。



14 生活上の不安や悩み × 38 サービスの利用の数(3)

図 35 利用サービス数と生活上の不安や悩み

14 生活上の不安や悩み

上段: 下段: % 38 % セ ン タ ー ス の 利 用 の し て	14 生活上の不安や悩み																		
	合計	自分の健康	家族の健康	自分の老後	家族の老後	子育て	子どもの教育や将来	看護や介護	家計や経済的問題	自分の仕事	家族の仕事	家族内の関係	地域の安全	近隣との人間関係	人権	災害	特になし	その他	不明
合計	158 100.0	82 51.9	37 23.4	73 46.2	30 19.0	2 1.3	9 5.7	20 12.7	49 31.0	15 9.5	9 5.7	5 3.2	23 14.6	16 10.1	3 1.9	29 18.4	14 8.9	8 5.1	18 11.4
2種類以上利用して	14 100.0	10 71.4	2 14.3	3 64.3	3 21.4	- -	- -	6 42.9	6 42.9	- -	- -	2 14.3	4 28.6	2 14.3	- -	4 28.6	- -	2 14.3	1 7.1
1種類利用して	20 100.0	10 50.0	4 20.0	8 40.0	3 15.0	1 5.0	2 10.0	2 10.0	7 35.0	1 5.0	- -	1 5.0	3 15.0	2 10.0	- -	6 30.0	2 10.0	2 10.0	4 20.0
合計	124 100.0	62 50.0	31 25.0	56 45.2	24 19.4	1 0.8	7 5.6	12 9.7	36 29.0	14 11.3	8 7.9	2 1.6	16 12.9	12 9.7	8 2.4	18 15.9	12 9.7	4 3.2	18 10.5

表 12 サービスの利用状況別・生活上の不安や悩み

「日常の生活の中で不安や悩み」の回答数を算出しました。回答者 178 人うち、回答がなかった 24 人 (13.5%)、「特になし」と回答した 15 人 (8.4%) を除くと、何らかの不安や悩みがあると回答したのは 139 人 (78.1%) でした。この 139 人を対象にして、それぞれの回答数をカウントしました。「不安や悩み」の平均回答数は 3.3 項目であり、これらの項目数と属性等との関連を検討しました。その結果、最も平均回数が高かったのは性別では男性、年代別では 60 歳代、世帯状況ではその他の同居世帯、利用サービスでは二種類以上のサービスを利用している人でした。

	件数	平均値	3 性別	
			男性	女性
33 生活上の不安・悩み(N)	139	3.26	3.54	3.07

表 13 性別・生活上の不安や悩みの回答数

	件数	平均値	24 年代(4)			
			60歳未満	60歳代	70歳代	80歳代
33 生活上の不安・悩み(N)	139	3.26	3.14	3.53	2.98	3.13

表 14 年代構成別・生活上の不安や悩みの回答数

	件数	平均値	26 世帯構成(4)			
			一人暮らし	夫婦世帯	その他の二人暮らし	その他の同居世帯
33 生活上の不安・悩み(N)	139	3.26	3.01	3.74	2.81	4.00

表 15 世帯構成別・生活上の不安や悩みの回答数

	件数	平均値	38 サービスの利用の数(3)		
			2種類以上利用	1種類利用	利用していない
33 生活上の不安・悩み(N)	139	3.26	3.85	3.71	3.13

表 16 サービスの利用数別・生活上の不安や悩みの回答数

6. 日常生活の中で「あったらいいな」と思うサービス

日常生活の中で「あったらいいな」と思うサービスを複数回答で質問しました。その結果は、多かつた順に「気軽に相談できる場がほしい」31人(17.4%)、次いで「家事の手助け」22人(12.4%)、「地域に集える場所が欲しい」18人(10.1%)「住宅管理者のサービス提供」15人(8.4%)でした。なお、この質問には「特になし」と回答した人が58人(32.6)と全体の3分の1を占めていました。この58人と回答がなかった47人(26.4%)を加えた105人(59.0%)は「あったらいいな」という質問に積極的な回答を今回はしていなかったことになります。

「住宅管理者がサービスを提供してほしい」と回答したのは15人(8.4%)であり、具体的なサービス内容として記載があった5名の内容は、住宅管理者が近く相談できる場がほしい、室内の壁が汚い・襖がきちんと閉まらない、依頼事項に早く反応して欲しい、エレベーターのこと(詳細不明)、食事のこと(詳細不明)などでした。(文中の人数、%は単純集計数値を使用)

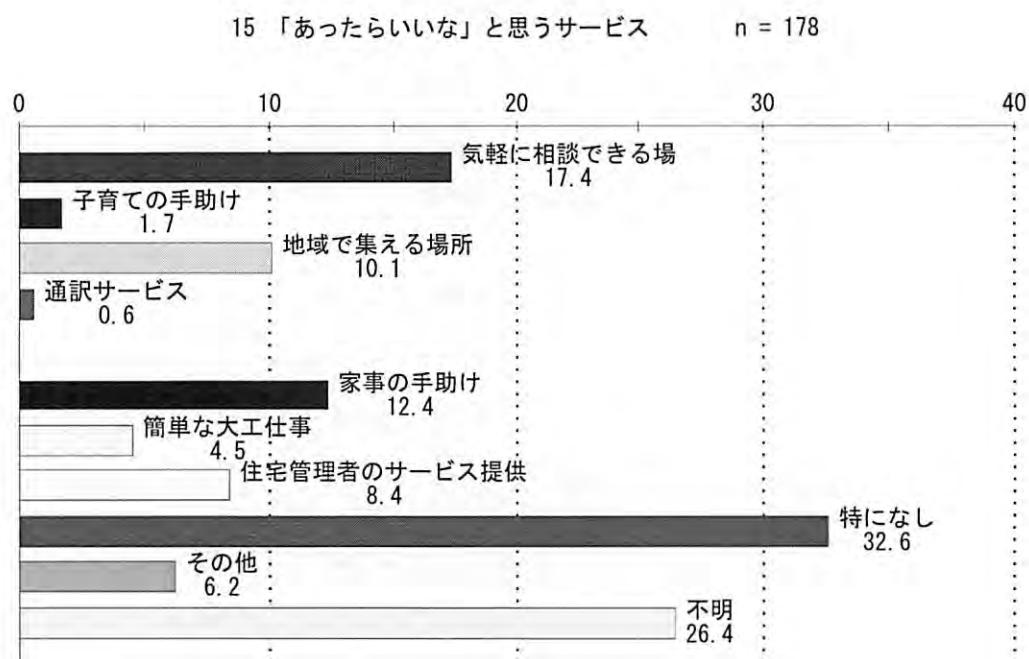


図 36 「あったらいいな」と思うサービス

日常生活の中で「あったらいいな」と思うサービスと性別との関連を検討しました。女性より男性に多かった項目は「地域で集える場所がほしい」でしたが、逆に男性より女性に回答した割合が高かった項目はありませんでした。

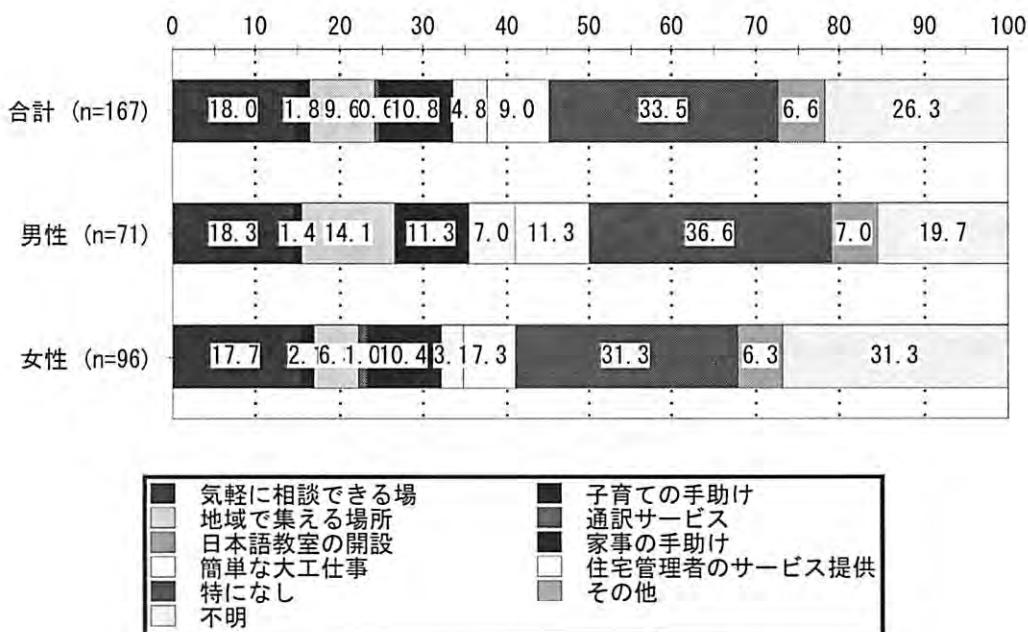
また、「あつたらいいな」と思うサービスと年代との関連では「家事の手助け」では、80歳代以上に高くなっていました。その他の項目については特徴的な傾向は認められず、強いていえば「特になし」は50～60歳代に高くなっていたということです。

「あつたらいいな」と思うサービスと世帯構成との関連では、「住宅管理者がサービスを提供してほしい」、「家事の手助け」は、ひとり暮らしに回答割合が高く、「気軽に相談できる場がほしい」では夫婦世帯に高く、「特になし」と回答した割合は「夫婦世帯以外の二人世帯」に高くなっていました。

15 「あつたらいいな」と思うサービス

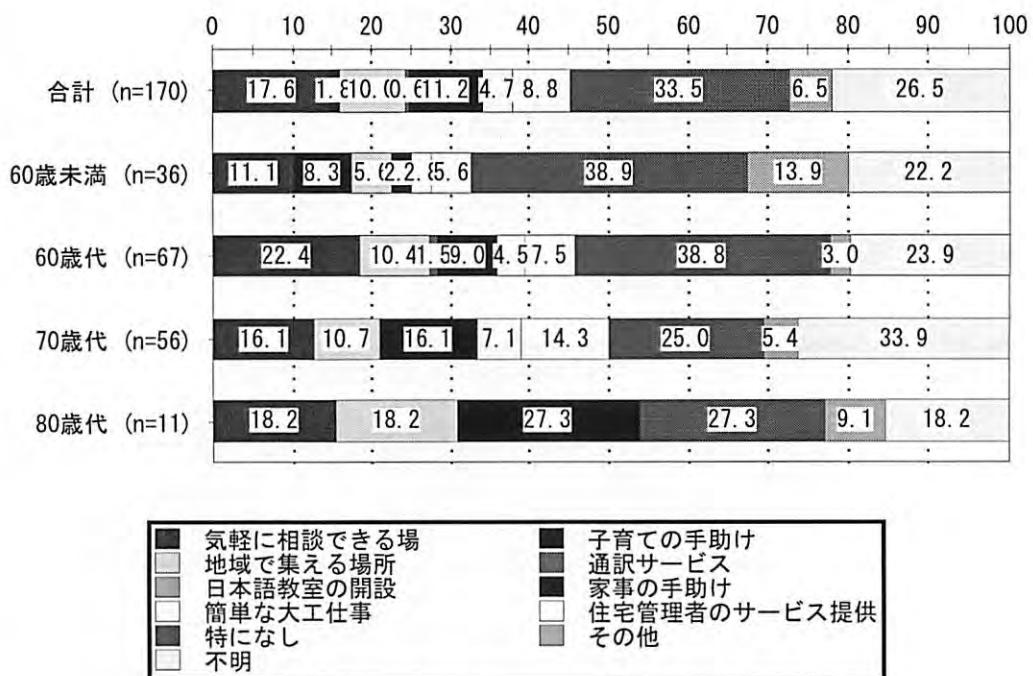
		15 「あつたらいいな」と思うサービス											
		合計	気軽に相談できる場	子育ての手助け	地域で集える場所	通訳サービス	日本語教室の開設	家事の手助け	簡単な大工仕事	住宅管理者のサービス提供	特になし	その他	不明
性別	合計	167	30	3	16	1	-	18	8	15	56	11	44
	合計	100.0	18.0	1.8	9.6	0.6	-	10.8	4.8	9.0	33.5	6.6	26.3
	男性	71	13	1	10	-	-	8	5	8	26	5	14
	女性	96	17	2	6	1	-	10	3	7	30	6	30
		100.0	17.7	2.1	6.3	1.0	-	10.4	3.1	7.3	31.3	6.3	31.3

表 17 性別「あつたらいいな」と思うサービス



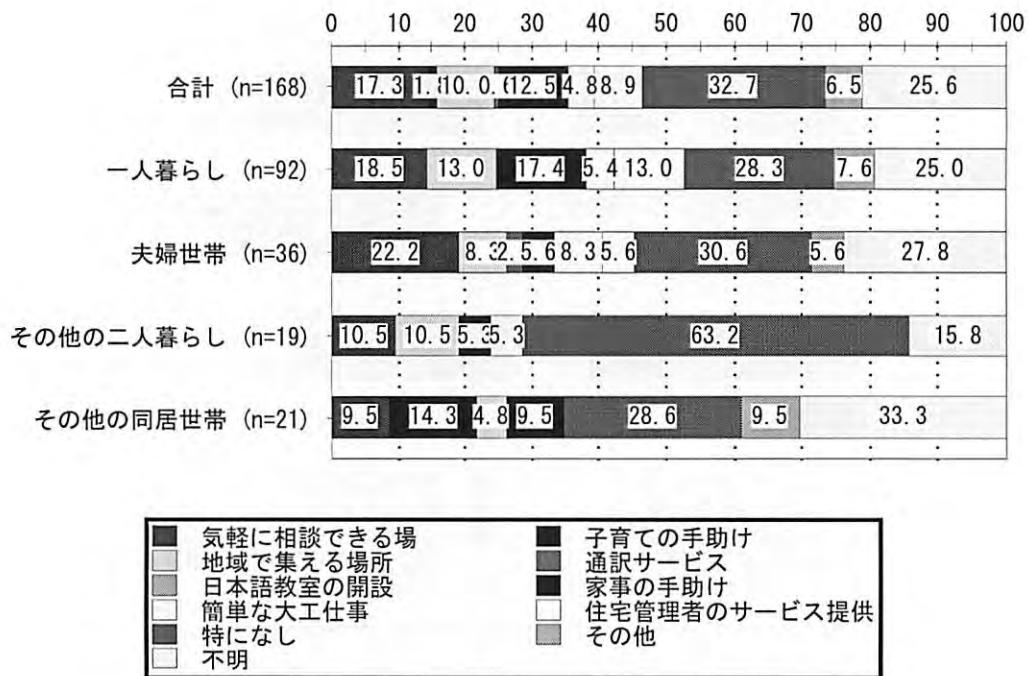
15 「あつたらいいな」と思うサービス × 3 性別

図 37 性別・「あつたらいいな」と思うサービス



15 「あつたらいいな」と思うサービス × 24 年代 (4)

図 38 年代別・「あつたらいいな」と思うサービス



15 「あつたらいいな」と思うサービス × 26 世帯構成(4)

図 39 世帯構成別・「あつたらいいな」と思うサービス

7. 近所や自治会等との付き合いについて

近所や自治会等との付き合いについて複数回答で質問しました。近所との付き合いの程度では、「近所の人と親しく話をする者がいる」は73人(41.0%)、「挨拶程度がほとんど」は72人(40.4%)、「近所の人とよく行き来している者がいる」は46人(25.8%)の順に高くなっていました。また「近所付き合いはしていない」と回答した人は37人(20.8%)でした。なお、この質問では、近所付き合いについて「挨拶程度」や「親しく話をする」、さらに「近所の人とよく行き来している者がいる」と回答した人であっても、「近所付き合いはしていない」と回答している場合がありました。そこでここでは、回答した人の意向を尊重して、前述の質問項目のいずれかに回答していても修正は加えずそのまま集計しています。

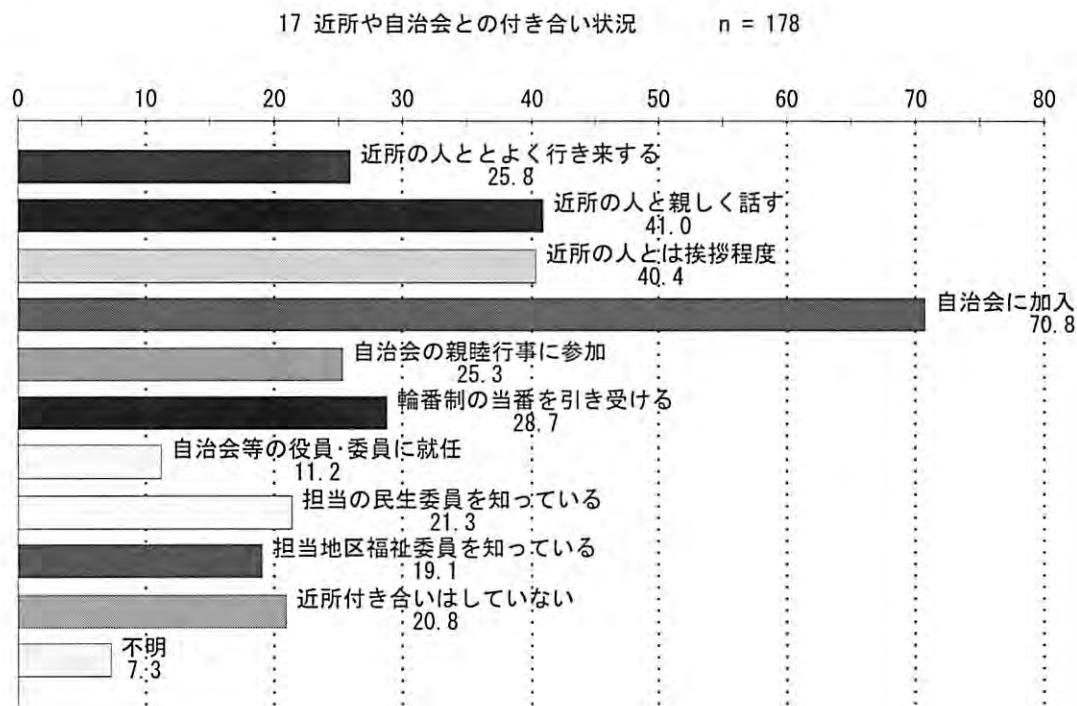
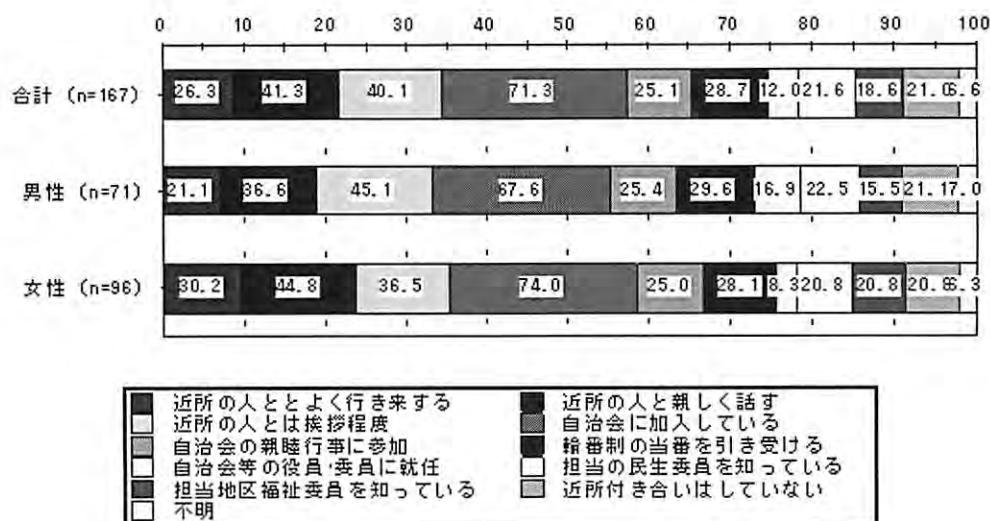


図 40 近所や自治会との付き合いの状況

自治会活動については、「自治会に加入している」は126人(70.8%)と7割を占めています。当団地の加入率は100%ですが、当該質問を4番目としたため、見逃したのかもしれません。具体的な参加状況については、「家族の中に清掃活動などの輪番制の当番を引き受けている者がいる」51人(28.7%)、「家族の中に自治会の親睦行事に参加している者がいる」が45人(25.3%)、「家族の中に自治会の役員や民生委員等に就任している者がいる」20人(11.2%)の順に多くなっていました。次に「家族の中に担当の民生委員を知っている者がいる」は38人(21.3%)でしたが、「家族の中に担当の地区福祉委員を知っている者がいる」は34人(19.1%)であり、民生委員を知っている割合より減少していました。

近所や自治会等との付き合いと性別との関連を検討しました。近所付き合いについては男性より女性の方が「よく行き来する」や、「親しく話す」割合が高く、また、「自治会に加入している」割合や、「担当の地区福祉委員を知っている」割合も高く、逆に自治会の役員や民生委員等の役員に就任している割合は男性に高くなっていました。



17 近所や自治会との付き合いの状況 × 3 性別

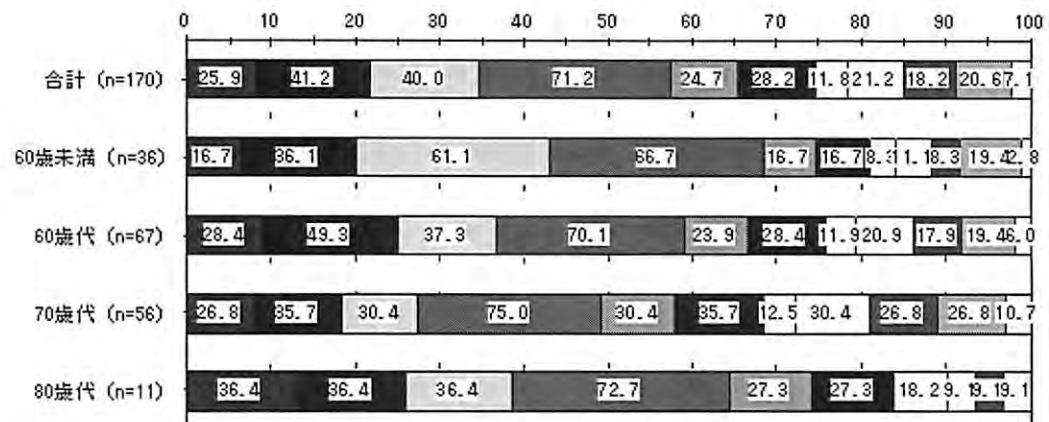
図 41 性別・近所や自治会との付き合いの状況

17 近所や自治会との付き合いの状況

上 下 段: % 性 別	17 近所や自治会との付き合い状況												
	合計	近所の人とよく行き来す	近所の人と親しく話す	近所の人とは挨拶程度	自治会に加入している	自治会の親睦行事に参加	輪番制の当番を引き受ける	自治会等の役員・委員に就任	担当の民生委員を知っている	担当地区福祉委員を知っている	近所付き合いはしていない	不明	
3 性 別	合計	167 100.0	44 26.3	69 41.3	67 40.1	119 71.3	42 25.1	48 28.7	20 12.0	36 21.6	31 18.6	35 21.0	11 6.6
	男性	71 100.0	15 21.1	26 36.6	32 45.1	48 67.6	18 25.4	21 29.6	12 16.9	16 22.5	11 15.5	15 21.1	5 7.0
	女性	96 100.0	29 30.2	43 44.8	35 36.5	71 74.0	24 25.0	27 28.1	8 8.3	20 20.8	20 20.8	20 20.8	6 6.3

表 18 性別・近所や自治会との付き合いの状況

年齢構成との関連では、「近所の人とよく行き来する」では80歳代に最も多く、「近所の人と親しく話す」と回答した割合を加えると、その割合は60歳代(77.7%)、80歳代(72.8%)、70歳代(62.5%)、60歳未満(52.8%)の順に多くなっていました。また、「近所付き合いはしていない」と回答した割合は70歳代15人(26.8%)が最も多くなっていました。しかし、自治会活動については、「自治会に加入している」、「家族の中に清掃活動などの輪番制の当番を引き受けている者がいる」、「家族の中に自治会の親睦行事に参加している者がいる」のそれぞれの割合が最も高かったのは70歳代でした。さらに、70歳代では「家族の中に担当の民生委員を知っている者がいる」、「家族の中に担当の地区福祉委員を知っている者がいる」と回答した割合も最も高くなっていました。



■ 近所の人とよく行き来する	■ 近所の人と親しく話す	□ 近所の人とは挨拶程度
■ 自治会に加入している	■ 自治会の親睦行事に参加	■ 輪番制の当番を引き受ける
■ 自治会等の役員・委員に就任	□ 担当の民生委員を知っている	■ 担当地区福祉委員を知っている
■ 近所付き合いはしていない	□ 不明	

17 近所や自治会との付き合いの状況 × 24 年代 (4)

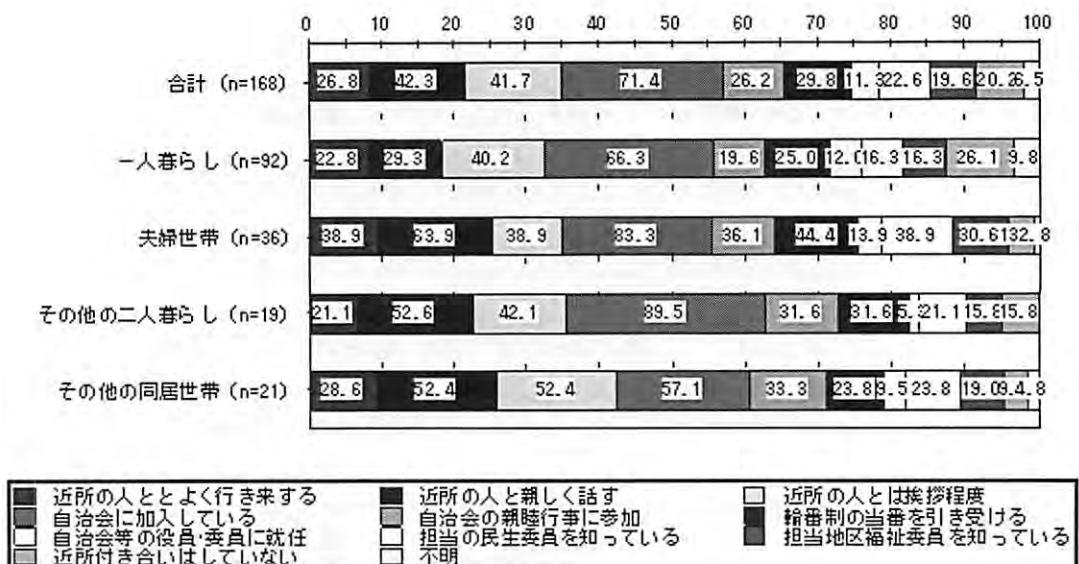
図 42 年代構成別・近所や自治会との付き合いの状況

17 近所や自治会との付き合い状況

上段:度数 下段:%	17 近所や自治会との付き合い状況										
	合計	近所の人とよく行き来す	近所の人と親しく話す	近所の人とは挨拶程度	自治会に加入している	自治会の親睦行事に参加	輪番制の当番を引き受ける	自治会等の役員・委員に就任	担当の民生委員を知っている	担当地区福祉委員を知っている	不明
合計	168 100.0	45 26.8	71 42.3	70 41.7	120 71.4	44 26.2	50 29.8	19 11.3	38 22.6	33 19.6	34 20.2
一人暮らし	92 100.0	21 22.8	27 29.3	37 40.2	61 66.3	18 19.6	23 25.0	11 12.0	15 16.3	15 16.3	24 26.1
夫婦世帯	36 100.0	14 38.9	23 63.9	14 38.9	30 83.3	13 36.1	16 44.4	5 13.9	14 38.9	11 30.6	5 13.9
その他の二人暮らし	19 100.0	4 21.1	10 52.6	8 42.1	17 89.5	6 31.6	6 31.6	1 5.3	4 21.1	3 15.8	-
その他の同居世帯	21 100.0	6 28.6	11 52.4	12 52.4	7 57.1	5 33.3	5 23.8	2 9.5	5 23.8	4 19.0	2 9.5
											4.8

表 19 世帯構成別・近所や自治会との付き合いの状況

次に近所や自治会等との付き合いと世帯構成との関連を検討しました。「近所の人とよく行き来する」、「近所の人と親しく話をする」、「自治会の親睦行事に参加している者がいる」、「清掃活動などの輪番制の当番を引き受けている者がいる」、「自治会の役員や民生委員等に就任している者がいる」のいずれも項目でも最もその割合が高かったのは夫婦世帯でした。さらに「担当の民生委員を知っている」、「担当の地区福祉委員を知っている者がいる」と回答した割合でも夫婦世帯が最も高くなっていました。なお、「近所付き合いはしていない」と回答した割合が最も高かった世帯はひとり暮らし世帯でした。



17 近所や自治会との付き合いの状況 × 26 世帯構成(4)

図 43 世帯構成別・近所や自治会との付き合いの状況

なお、近所付き合いをしていないと回答した人は37人（20.8%）でしたが、その理由について記載のあった36人の内訳（複数回答）は、「日程や時間が合わない」は15人（41.7%）、「人間関係が煩わしい」は13人（36.1%）、「体調が悪く参加できない」は10人（27.8%）、「興味関心がない」は6人（16.7%）であり、「文化や言葉に違いがあるから」と回答した人は1人（2.8%）でした。

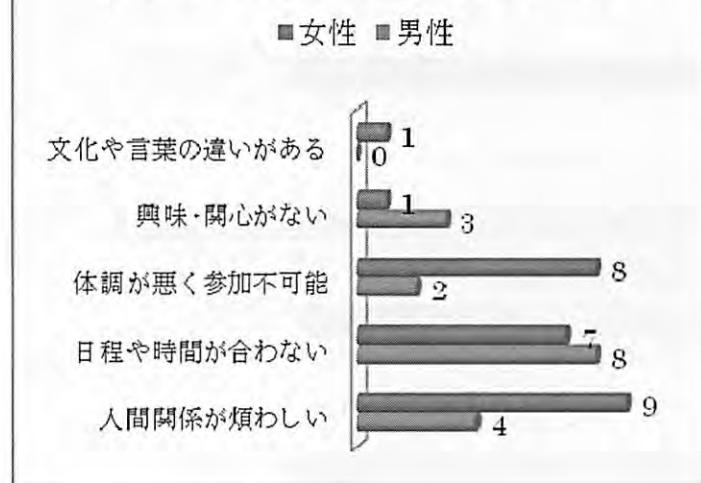
18 近所付き合いをしていない理由 (M A)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	人間関係が煩わしい	13	7.3	36.1
2	日程や時間が合わない	15	8.4	41.7
3	体調が悪く参加不可能	10	5.6	27.8
4	興味・関心がない	6	3.4	16.7
5	文化や言葉の違いがある	1	0.6	2.8
	不明	142	79.8	
	サンプル数 (%ベース)	179	100.0	36

表 20 近所付き合いをしない理由

近所付き合いをしていない理由と性別との関連を検討した結果、男性では女性より「日程や時間が合わない」と回答した割合が若干高く、女性では「人間関係が煩わしい」、「体調が悪くて参加できない」と回答した割合が若干高くなっていました。

図44 近所付き合いをしていない理由



8. 緊急時などに頼りにする人について

緊急時などに頼りにする人について複数回答で質問しました。上位 5 位までは「別居の子ども」が 56 人 (31.5%)、「自治会の人」55 人 (30.9%)、「同居の配偶者」が 44 人 (24.7%)、「友人・知人」が 43 人 (24.2%)、「近所の人」は 42 人 (23.6%) でした。なお、「頼りにする人はいない」と回答があったのは 14 人 (7.9%) でした。(文中の人数、%は単純集計数値を使用)

19 緊急時に頼る人

性別	上段: 下段: %	19 緊急時に頼る人														
		合計	同居の配偶者	別居の配偶者	同居の子ども	別居の子ども	子ども以外の親族	近所の人	自治会の人	民生委員・地区福祉委員	友人・知人	市の関係機関	福祉サービス事業者	頼りにする人はいない	その他	不明
3	合計	167	41	2	19	53	29	40	52	22	43	14	5	14	5	8
	男性	100.0	24.6	1.2	11.4	31.7	17.4	24.0	31.1	13.2	25.7	8.4	3.0	8.4	3.0	4.8
	女性	100.0	36.6	2.8	7.0	29.6	14.1	19.7	32.4	19.7	16	9	4	6	2	2.8

表 21 性別・緊急時に頼る人

19 緊急時に頼る人 n = 178

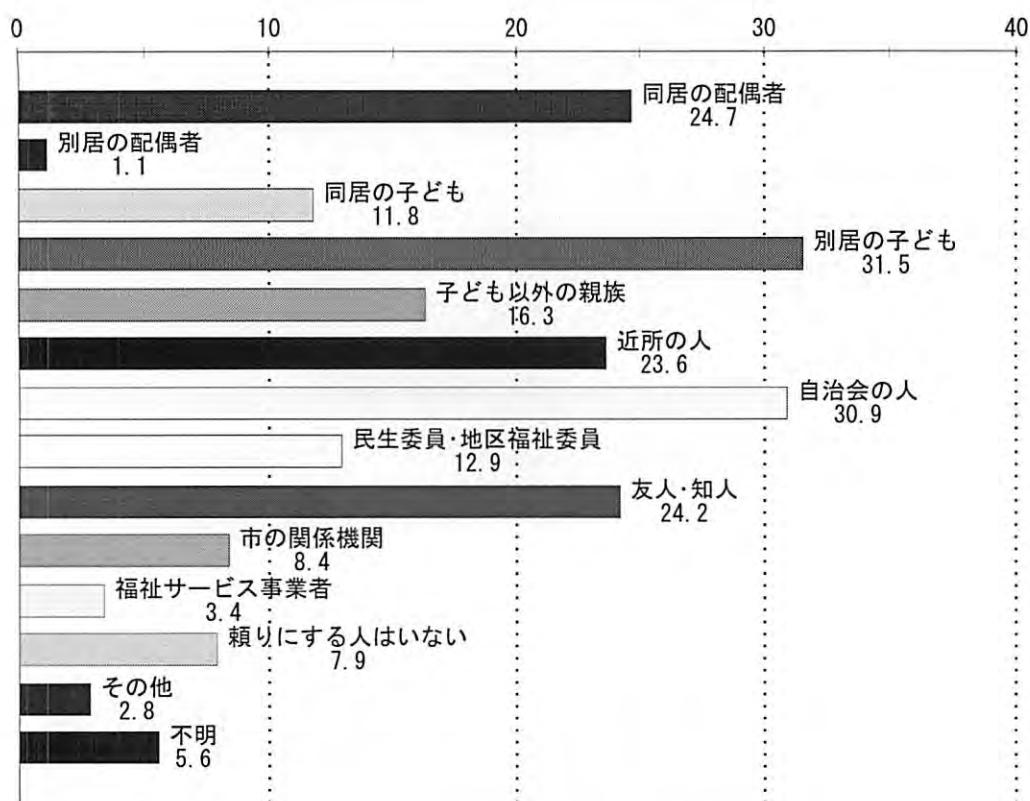
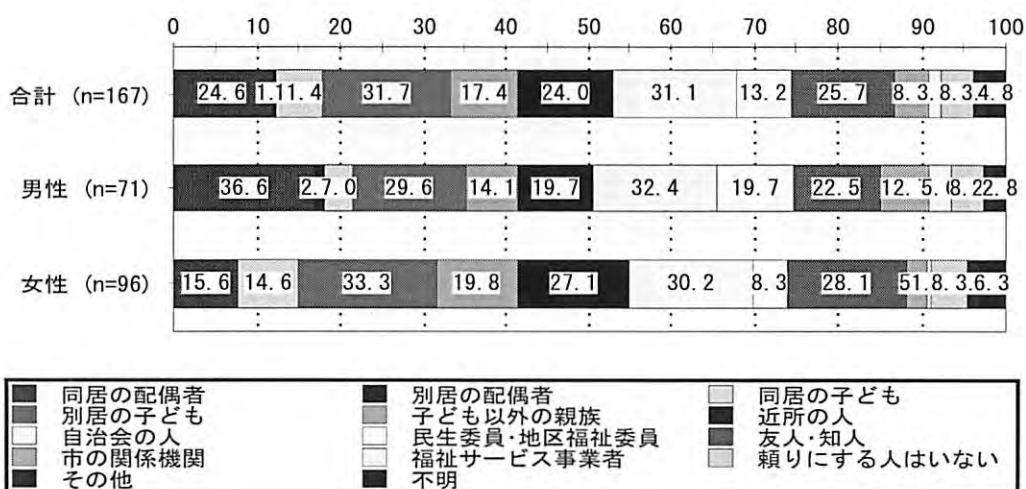


図 45 緊急時等に頼る人

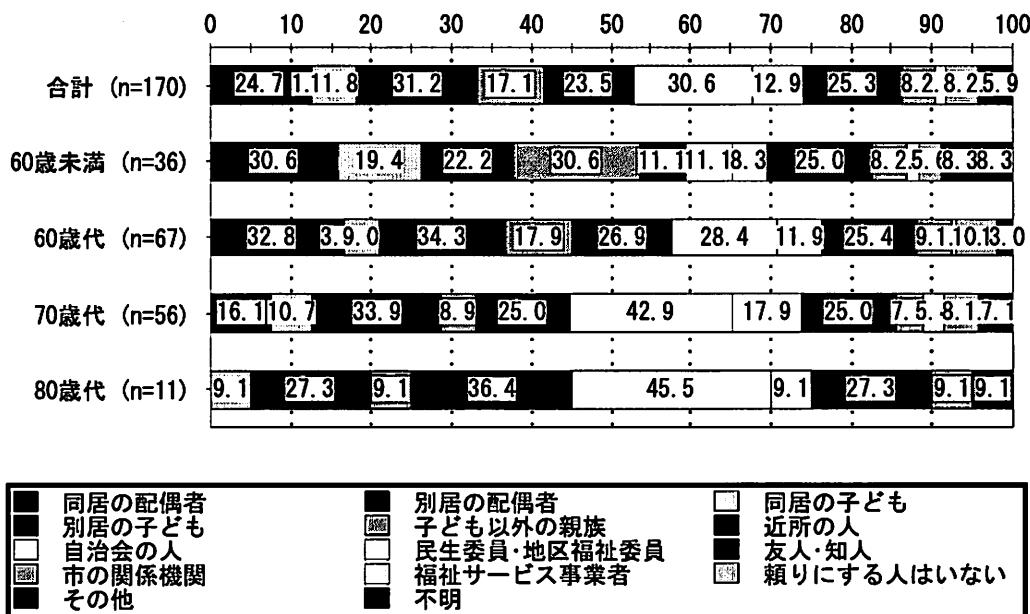
緊急時に頼る人と、性別との関連では、男性で高かったのは「同居の配偶者」、「民生委員・地区福祉委員」、「市の関係機関」などであり、女性では「同居の子ども」、「近所の人」でした。「頼りにする人はいない」と回答した割合では差がありませんでした。



19 緊急時に頼る人 × 3 性別

図 46 性別・緊急時等に頼る人

緊急時に頼る人と年代との関連では、「近所の人」および「自治会の人」と回答した割合は加齢と共に高くなっています。80歳代ではそれぞれ36.4%、45.5%を占めています。60歳代では「同居の配偶者」と「別居の子ども」の割合が高く、60歳未満では「同居の子ども」と「子ども以外の親族」が多くなっていました。なお、「友人・知人」と回答した割合は各年度共に25~27%であり、差はありませんでした。



19 緊急時に頼る人 × 24 年代 (4)

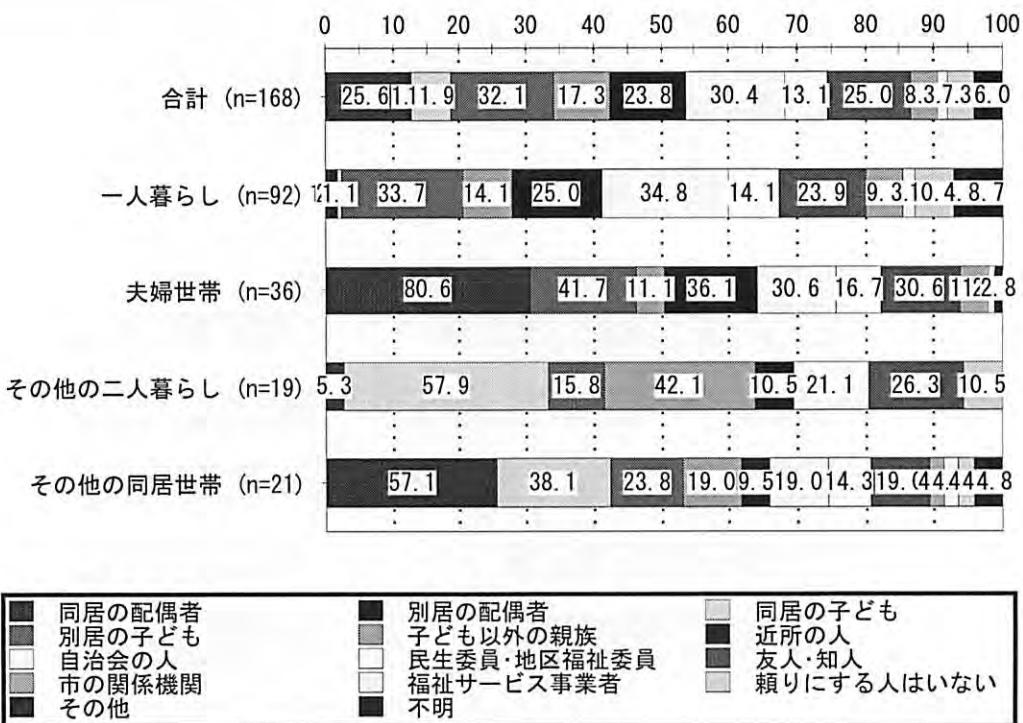
図 47 年代構成別・緊急時に頼る人

19 緊急時に頼る人

上 下 段: %	19 緊急時に頼る人														
	合計	同居の配偶者	別居の配偶者	同居の子ども	別居の子ども	子ども以外の親族	近所の人	自治会の人	民生委員・地区福祉委員	友人・知人	市の関係機関	福祉サービス事業者	頼りにする人はいない	その他	不明
合計	170	42	2	20	53	29	40	52	22	43	14	5	14	5	10
	100.0	24.7	1.2	11.8	31.2	17.1	23.5	30.6	12.9	25.3	8.2	2.9	8.2	2.9	5.9
60歳未満	36	11	-	7	8	11	4	4	3	9	3	1	2	3	3
	100.0	30.6	-	19.4	22.2	30.6	11.1	11.1	8.3	25.0	8.3	2.8	5.6	8.3	8.3
60歳代	67	22	2	6	23	12	18	19	8	17	6	1	7	1	2
	100.0	32.8	3.0	9.0	34.3	17.9	26.9	28.4	11.9	25.4	9.0	1.5	10.4	1.5	3.0
70歳代	56	9	-	6	19	5	14	24	10	14	4	3	5	1	4
	100.0	16.1	-	10.7	33.9	8.9	25.0	42.9	17.9	25.0	7.1	5.4	8.3	1.8	7.1
80歳代	11	-	-	1	3	1	4	5	1	3	1	-	-	-	1
	100.0	-	-	9.1	27.3	9.1	36.4	45.5	9.1	27.3	9.1	-	-	-	9.1

表 22 年代構成別・緊急時に頼る人

緊急時に頼る人と世帯構成との関連では、「自治会の人」と回答した割合はひとり暮らしに高く、「同居の配偶者」、「別居の子ども」、「近所の人」、「友人・知人」では夫婦世帯に高く、次に「同居の子ども」、「子ども以外の親族」と回答した割合では、「夫婦以外の二人世帯」にそれぞれ高くなっています。



19 緊急時に頼る人 × 26 世帯構成(4)

図 48 世帯構成別・緊急時に頼る人

19 緊急時に頼る人 × 26

	上段:度数 下段:%	19 緊急時に頼る人														
		合計	同居の配偶者	別居の配偶者	同居の子ども	別居の子ども	子ども以外の親族	近所の人	自治会の人	民生委員・地区福	友人・知人	市役所・市役所外機	福祉サービス事業者	頼りにする人はいな	その他	不明
	合計	168	43	2	20	54	29	40	51	22	42	14	5	13	5	10
		100.0	25.6	1.2	11.9	32.1	17.3	23.8	30.4	13.1	25.0	8.3	3.0	7.7	3.0	6.0
世帯構成別	一人暮らし	92	1	2	1	31	13	23	32	13	22	9	3	10	4	8
		100.0	1.1	2.2	1.1	33.7	14.1	25.0	34.8	14.1	23.9	9.8	3.3	10.9	4.3	8.7
	夫婦世帯	36	29	-	-	15	4	13	11	6	11	4	1	-	-	1
		100.0	80.6	-	-	41.7	11.1	36.1	30.6	16.7	30.6	11.1	2.8	-	-	2.8
	その他の二 人暮らし	18	1	-	11	3	8	2	4	-	5	-	-	2	-	-
		100.0	5.3	-	57.9	15.8	42.1	10.5	21.1	-	26.3	-	-	10.5	-	-
	その他の同 居世帯	21	12	-	8	5	4	2	4	3	4	1	1	1	1	1
		100.0	57.1	-	38.1	23.8	19.0	9.5	19.0	14.3	19.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8

表 23 世帯構成別・緊急時に頼る人

9. 緊急時に頼る人に連絡した場合に駆けつけるのに要する時間

緊急時に頼る人に連絡した場合に、駆けつけるのに要する時間を4つの選択肢で質問しました。その結果、最も多かったのは「30分以内」93人(52.2%)であり、次いで「1時間以内」24人(13.5%)であり、両者を併せると117人(65.7%)でした。また、緊急時に頼る人と、対象者の性別との関連では、30分以内と回答した割合は男性より女性に高く、年代との関連では、加齢に伴って30分以内と回答した割合は高くなりました。世帯構成との関連では「30分以内」と回答した割合は二人暮らしでは6割強、ひとり暮らしと「その他の同居世帯」ではそれぞれ4割強を占めていました。

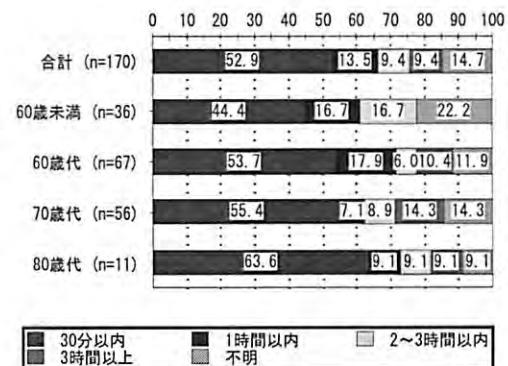
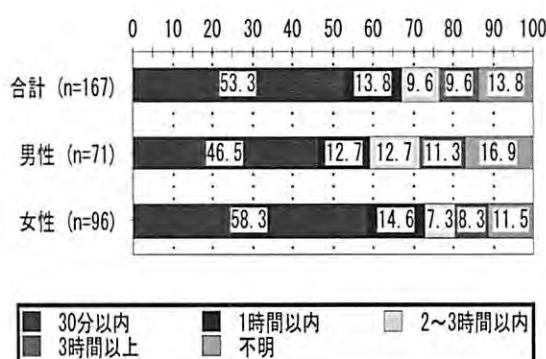
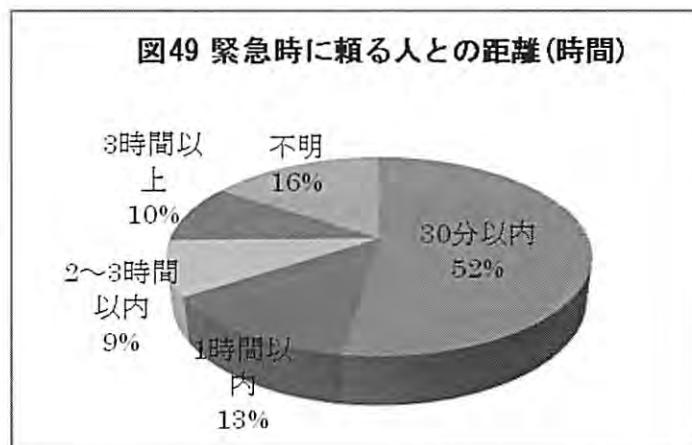
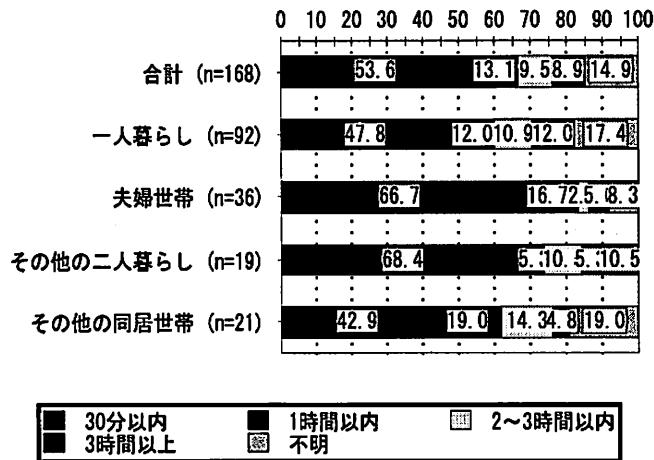


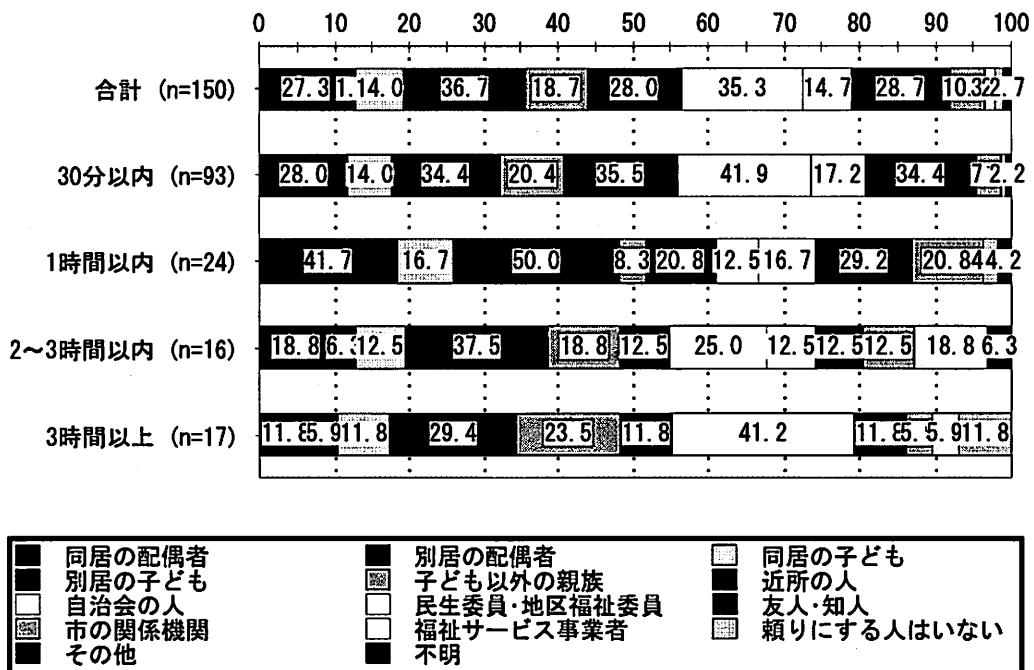
図50 性別・緊急時等に頼る人との距離

図51 年代構成別・緊急時等に頼る人との距離



20 緊急時に頼る人との距離(時間) × 26 世帯構成(4)

図 52 世帯構成別・緊急時等に頼る人との距離



19 緊急時に頼る人 × 20 緊急時に頼る人との距離(時間)

図 53 緊急時等に頼る人との距離別・頼る人

19 緊急時に頼る人

上段: 度数 下段: %	19 緊急時に頼る人														
	合計	同居の配偶者	別居の配偶者	同居の子ども	別居の子ども	子ども以外の親族	近所の人	自治会の人	民生委員・地区福祉委員	友人・知人	市の関係機関	福祉サービス事業者	頼りにする人はい	その他	不明
合計	150	41	2	21	55	28	42	53	22	43	15	5	3	4	-
	100.0	27.3	1.3	14.0	36.7	18.7	28.0	35.3	14.7	28.7	10.0	3.3	2.0	2.7	-
30分以内	93	26	-	13	32	19	33	39	16	32	7	1	-	2	-
	100.0	28.0	-	14.0	34.4	20.4	35.5	41.9	17.2	34.4	7.5	1.1	-	2.2	-
1時間以内	24	10	-	4	12	2	5	3	4	7	5	-	1	1	-
	100.0	41.7	-	16.7	50.0	8.3	20.8	12.5	16.7	29.2	20.8	-	4.2	4.2	-
2~3時間	16	3	1	2	6	3	2	4	2	2	2	3	-	1	-
	100.0	18.8	6.3	12.5	37.5	18.8	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	18.8	-	6.3	-
3時間以上	17	2	1	2	5	4	2	7	-	2	1	1	2	-	-
	100.0	11.8	5.9	11.8	29.4	23.5	11.8	41.2	-	11.8	5.9	5.9	11.8	-	-

表 24 緊急時に駆けつけるのに要する時間と頼る人



20 緊急時に頼る人との距離(時間) × 19 緊急時に頼る人

図 54 緊急時等に頼る人別・駆けつけるのに要する時間

10. まとめ

富田林市府営楠風台住宅地区にお住まいの方々に「生活に関するアンケート」を実施した結果、アンケート回収数は183人でしたが、アンケートへの記入が全くなかった5人を除いた178人を今回の分析対象として分析した結果、以下のことが明らかになりました。なお、アンケートの回収率は府営楠風台住宅団地の入居315世帯に占める割合から算出すると56.5%になります。

＜調査対象者の概要＞

1. 178人の性別内訳は、男性39.9%、女性53.9%であり、女性の占める割合が高い。
2. 年齢構成は、60歳代が37.6%、70歳代31.5%であり、60歳代以上で4分の3を占める。
3. 世帯状況は、ひとり暮らし51.7%、二人暮らし30.9%であり、両者で全世帯の8割である。
4. 男性の52.9%、女性の57.4%はひとり暮らしであり、男性の二人暮らしはすべて夫婦世帯。
5. 同居者は、配偶者が最も多く26.4%、次いで子ども19.7%である。
6. 加齢に伴ってひとり暮らしの割合が高くなり、その他の同居世帯は減少する。

＜健康状態＞

1. 「健康」と回答したのは32.6%であり、全体の57.9%は健康上の問題をかかえている。
2. 健康上の問題では「治療中の病気やケガがあり通院している」36.5%、「障がい手帳の所持」18.0%、「治療の必要はないが体調不良」10.7%、「治療はしていないが病氣がある」5.1%、「常時介護を必要としている」4.5%である。
3. [健康]と回答した割合は、男性の36.6%、女性の33.3%である。
4. 障がい手帳所持者の内訳は男性の15.5%、女性の18.8%である。
5. 健康と回答した割合が低かったのは「夫婦世帯を含む二人暮らし」25.5%である。
6. 「夫婦世帯を含む二人暮らし」は「治療中の疾病があり通院中」47.3%、「障がい者手帳所持者」23.6%であり、それぞれに占める割合が最も高い。
7. 手帳の内訳は身体障がい者手帳27人、療育手帳1人、精神障がい者保健福祉手帳3人である。

＜サービス利用状況＞

1. サービスの利用状況は行政サービス12.9%、障がい者福祉サービス9.6%、介護保険サービス7.9%であり、性別による差は認められない。
2. いずれのサービスも80歳代、70歳代に利用の割合が高い。
3. 80歳代以上は行政サービス45.5%、介護保険サービス36.4%、障がい者保健福祉サービス36.4%を利用している。
4. 行政サービスの利用が多いのはひとり暮らし16.3%、障がい者保健福祉サービスでは夫婦世帯19.4%である。
5. 「身体障がい者手帳」の所持者27人のうち、二種類以上のサービスを利用は25.9%、1種類のみ利用は37.0%、いずれのサービスも活用していないは33.3%である。
6. 二種類以上のサービスを利用している割合が高いのは80歳代36.4%である。

<生活の中で不自由に感じていること>

1. 生活の中で何らかの不自由を感じている割合は 60.7%である。
2. 不自由さの内訳は、「買い物」39.3%、「階段昇降」27.5%、「通院などの外出」16.3%である。
3. 男性は、「食事作り」16.9%、「ゴミ出し」11.3%、「通院などの外出」22.5%に不自由を感じ、女性では「買い物」41.7%、「階段昇降」32.3%に不自由を感じている。
4. 加齢に伴い「食事づくり」、「食事の後片付け」、「洗濯・掃除」、「通院などの外出」の回答割合が高くなる。
5. 不自由と回答した平均項目数は 2.5 項目であり、その数が多いのは性別は男性、年代は 80 歳代以上、世帯はひとり暮らし、サービスの利用は二種類以上のサービス利用者である。

<生活の中での不安や悩み>

1. 全体の 8 割に「不安や悩み」があり、「特にない」は 8.4%に過ぎない。
2. 「不安や悩み」の上位 5 位は「自分の健康」52.2%、「自分の老後」44.4%、「家計や経済」30.3%、「家族の健康」23.0%、「災害に関すること」18.0%である。
3. 男性は女性より「自分の健康」、「家族の老後」、「家計や経済」に不安や悩みを感じている。
4. 80 歳代以上は「自分の健康」、「看護や介護」、「家計や経済」に不安や悩みを感じている。
5. ひとり暮らしは「自分の健康」、「看護や介護」に不安や悩みを感じている。
6. 不安や悩みの平均回答数は 3.3 であり、その数が多いのは性別では男性、年代では 60 歳代、世帯状況ではその他の同居世帯である。

<日常生活の中で「あつたらいいな」と思うサービス>

1. 「あつたらいいな」と思うサービス上位 3 位は、「気軽に相談できる場がほしい」17.4%、「家事の手助け」12.4%、「地域に集える場所が欲しい」10.1%である。
2. 「住宅管理者がサービスを提供してほしい」は 8.4%であり、その内容は近くで相談できる場がほしい、依頼事項に早く反応して欲しい、エレベーターや食事のこと（詳細不明）、室内の壁が汚い・襖がきちんと閉まらない（ので対処してほしい）などである。
3. 「あつたらいいな」と思うサービスは女性より男性に多く、「集える場所」を希望している。
4. 「あつたらいいな」と思うサービスで、80 歳代以上は「家事の手助け」を希望している。
5. ひとり暮らしは「家事の手助け」、「住宅管理者がサービスを提供してほしい」、「地域で集える場所」を希望している。

<近所や自治会等との付き合い>

1. 近所との付き合いの程度は、「近所の人と親しく話をする」41.0%、「挨拶程度がほとんど」40.4%、「近所の人とよく行き来している」25.8%である。
2. 「近所付き合いはしていない」と回答した割合は 20.8%である。
3. 「輪番制の当番を引き受けている」28.7%、「自治会の親睦行事に参加している」25.3%、「自治会の役員や民生委員等に就任」11.2%の順に多い。
4. 「担当民生委員を知っている」は 21.3%、「担当地区福祉委員を知っている」は 19.1%である。
5. 男性より女性に「よく行き来する」や、「親しく話す」が多く、「自治会の役員や民生委員等の役員に就任している」は男性に多い。

6. 「よく行き来する」は80歳代に多く、「近所付き合いはしていない」は70歳代に多い。
7. 「近所付き合いはしていない」が最も高かった世帯はひとり暮らし世帯である。
8. 「近所付き合いをしていない理由」は「興味・関心がない」は少なく、上位3位は「日程や時間が合わない」、「人間関係がわずらわしい」、「体調が悪い」である。
9. 近所付き合いをしていない理由では、男性は「日程や時間が合わない」、「興味・関心がない」が多く、女性は「人間関係が煩わしい」、「体調が悪くて参加できない」が多い。

＜緊急時に頼りにする人＞

1. 緊急時に頼りにする人の上位5位は「別居の子ども」31.5%、「自治会の人」30.9%、「同居の配偶者」24.7%「友人・知人」24.2%、「近所の人」23.6%である。
2. 緊急時に「頼りにする人はいない」と回答があったのは7.9%である。
3. 緊急時に頼る人は、男性は女性より「同居の配偶者」、「民生委員・地区福祉委員」、「市の関係機関」が多く、女性は「友人・知人」、「近所の人」、「子ども以外の親族」が多く、「頼りにする人はいない」と回答した割合に性差はない。
4. 80歳代では緊急時に頼る人は「近所の人」、「自治会の人」が多い。
5. ひとり暮らしでは緊急時に頼る人は「自治会の人」が多い。
6. 緊急時に頼る人が駆けつけるのに要する時間は、「30分以内」52.2%であり、「1時間以内」13.5%を合わせると6割を超える。
7. 緊急時に頼る人が駆けつけるのに要する時間が「30分以内」と回答した割合は男性より女性に多く、加齢に伴って30分以内と回答した割合は高くなる。
8. 緊急時に頼る人が駆けつけるのに要する時間が「30分以内」は、夫婦世帯と二人暮らしでは6割強、ひとり暮らしと「その他の同居世帯」では4割強である。

③大阪府社協「公営集合住宅における要援護者見守りシステム構築事業」との比較

1. 調査対象者の概要

(1)回収率

	配布数	回収数	回収率(%)
楠風台地区	315	183(記入なし5)	56.5
清水町地区	1,146	507(記入なし1)	44.2

(2)性別と年齢

()%

	性別			年齢
	男性	女性	不明	
楠風台地区	71(39.9)	96(53.9)	11(6.2)	70歳以上 67(37.6)
清水町地区	177(35.0)	317(62.6)	12(2.4)	238(47.0)

(3)世帯状況

()%

	二人暮らし(%)	一人暮らし(%)
楠風台地区	55(30.9)	92(51.7)
清水町地区	207(40.9)	173(34.2)

2. 健康状態

(1)何らかの疾病や障がいのある人

楠風台地区	103(57.9)	()%
清水町地区	354(70.0)	

(2)健康状態

()%

	治療中の病気やケガで通院	健康	障がい手帳
楠風台地区	65(36.5)	58(32.6)	32(18.0)
清水町地区	218(43.1)	125(24.7)	158(31.2)

3. 各種サービス利用状況

()%

	行政サービス	介護サービス	障がいサービス
楠風台地区	23(12.9)	14(7.9)	17(9.6)
清水町地区	107(21.1)	88(17.4)	62(12.3)

4. 生活の中で不自由に感じていること

(1)特になしの割合

()%

	特くなし	回答なし	回答あり
楠風台地区	45(25.3)	25(14.0)	108(60.7)
清水町地区	179(35.4)	92(18.2)	235(46.4)

(2)不自由に感じていること

()%

	買い物	階段の上下	通院
楠風台地区	70(39.3)	49(27.5)	29(16.3)
清水町地区	113(22.3)	87(17.2)	87(17.2)

5. 生活の中での不安や悩み

()%

	自分の健康	自分の老後	家計や経済	家族の健康	災害に関する事	家族の老後	特になし
楠風台地区	93(52.2)	79(44.4)	54(30.3)	41(23.0)	32(18.0)	31(17.4)	15(8.4)
清水町地区	276(54.5)	268(53.0)	210(41.5)	173(34.2)	97(19.2)	131(25.9)	29(5.7)

6. 日常生活の中で「あったらいいな」と思うサービス

()%

	気軽に相談できる場	家事の手助け	集える場	住宅管理者がサービスを提供	特になし
楠風台地区	3 1 (17.4)	2 2 (12.4)	1 8 (10.1)	1 5 (8.4)	5 8 (32.6)
清水町地区	1 4 7 (29.1)	5 6 (11.1)	8 3 (16.4)	6 2 (12.3)	1 5 2 (30.0)

7. ご近所や自治会等との付き合いについて

()%

	近所の人と親しく話をする	挨拶程度	近所の人とよく行き来している	していない	自治会へ加入
楠風台地区	7 3 (41.0)	7 2 (40.4)	4 6 (25.8)	3 7 (20.8)	1 2 6 (70.8)
清水町地区	1 4 3 (29.4)	2 4 6 (48.6)	1 4 9 (29.4)	9 8 (19.4)	3 0 3 (59.9)

8. 緊急時に頼りにする人について

()%

	別居の子供	自治会の人	同居の配偶者	友人・知人	ない
楠風台地区	5 6 (31.5)	5 5 (30.9)	4 4 (24.7)	4 3 (24.2)	1 4 (7.9)
清水町地区	1 9 2 (37.9)	5 0 (9.9)	1 8 9 (37.4)	1 2 0 (23.7)	1 3 (4.7)

9. 緊急時に頼る人に連絡した場合に駆けつけるのに要する時間

()%

	30分以内	1時間以内	2~3時間以内	3時間以上
楠風台地区	9 5 (52.2)	2 4 (13.5)	1 6 (9.0)	1 7 (15.7)
清水町地区	3 1 8 (62.8)	8 5 (16.8)	4 8 (9.5)	1 3 (2.6)

10. 自由記載欄

()%

	日常生活	要望・提案	経済問題	健康問題	介護問題	障がい問題
楠風台地区	3 3 (48)	1 5 (22)	8 (12)	7 (10)	3 (4)	3 (4)
清水町地区	6 9 (43)	3 2 (20)	2 5 (16)	1 5 (9)	1 2 (7)	8 (5)

(4) 府営住宅「要援護者見守リシステム」のあり方調査 意見交換会概要

<日 時>平成 21 年 3 月 27 日(金) 14 時～16 時

<場 所>府営楠風台住宅集会所

<出席者>

大阪府住宅まちづくり部住宅経営室住宅管理課 3 名

〃 施設管理グループ 2 名

大阪府住宅供給公社堺管理センター 2 名

大阪府社会福祉協議会 2 名

府営楠風台自治会・地区福祉委員会 13 名

計 22 名

<協議内容>

1. 楠風台地区調査結果の概要 (府社協報告)

- ・世帯状況…一人暮らしもしくは二人暮らし世帯が全体の 8 割を超している
- ・各種サービス利用状況…他地区の結果に比べ、サービスの利用が少ない
- ・緊急時に頼りにする人について…自治会の人の割合が他地区に比べて大きい

2. 楠風台地区での現状聞き取り

○赤い布運動について

- ・孤独死はこれまでに 2, 3 件、今年に入って首つり死が 2 件
- ・福祉委員会と相談して 65 歳以上の入居者に赤い布を配布し、赤い布運動を開始（朝ベランダに赤い布を吊るして所在を確認する）
- ・平成 20 年 11 月頃から運動を実施し、それ以後に孤独死は起きていない。
- ・運動開始前は運動の意味が伝わりきらず、運動に対して協力的でない意見もあった。赤い布をベランダに出すことで 65 歳以上の人人が入居していることを宣伝しているようなもので、泥棒被害などが心配などの意見が出ていた。
- ・運動開始後は泥棒被害などなく、棟ごとに 2 人ずついる福祉委員協力員が巡回、見守りしている

○自治会老人部について

- ・老人部の行事が多く、外に出る機会がたくさんあり、協力しながら行事が進められるといったコミュニティが構築されている（花見会、餅つき、納涼会など多数）
- ・棟ごとに 65 歳以上の住民の名簿を作っており、それに基づいて高齢者宅に適宜訪問し、その見回り時に健康状態をチェックしたり、ティッシュを配りながら友愛訪問を実施している。また名簿があることで緊急時の備えにもなる。
- ・月 1 回に医者がボランティアで来ており、健康についての相談（問診、血圧、聴診）ができる体制がある。

※行事、名簿の作成、巡回体制、友愛訪問、ボランティア（専門職）の協力などにより、生活面、緊急時、健康面などに対するサポート体制がある。

○不安な点について

- ・買い物が不便（高齢になって足が不自由になると外出がしんどくなる）
- ・市の予算の関係で巡回バスがなくなり、今は病院のバスなどを活用している
- ・地元の商店には店を閉めないように依頼している

3. 今後の取り組み・課題

○ふれあいリビング事業について、

- ・21年度の予算がつき、楠風台を含めて3団地がふれあいリビング事業を開始する（すでに府内で18団地が実施）。
- ・住宅供給公社によって集会所の工事等は進められ、流れとしては5月からプランニングし、9月ごろに発注して工事がスタートし、おおよそ1月に完成する予定。
- ・備品関係については自治会負担となるが、（財）大阪ガスグループ福祉財団助成金や（独）福祉医療機構助成金を活用してきた前例がある。楠風台については富田林市が全面協力すると言ってくれている。
- ・ふれあいリビングは、改修してリビングを作ることが目的ではなく、その後自治会が運営し、継続して活動実践を積み重ねていくことが重要。
- ・ふれあいリビング事業は単なる喫茶店事業ではなく、福祉活動拠点の整備が一番の目的。喫茶店については、お茶もできる場所という位置づけであって、それを活用した様々な事業の展開が望まれる。自治会としては、より気軽に来られる、集まれるようなものを目指している。
- ・行事の参加率が高いものの、やはり参加しない人も中にはいる。あまり顔を見せない方たちに働きかけ、地域との関係を作っていくことが今後の課題。
- ・他の団地では行事やサロンなどだけでなく、生活に密着した時事的なことを扱った講習会など（例：定額給付金の説明会）をすることで参加率がさらにあがったり、初めての方も来られるようになるといった実践事例も報告されている。

4. 今後の予定

- ・報告書は実践事例を中心にまとめる
- ・アンケートに協力いただいた住民の方々への報告については、報告書のダイジェスト版を作成し、掲示板や回覧板を活用して住民にフィードバックする。

2. まとめ

(1) 孤立・孤独死を巡る地域福祉の状況

(2) 楠風台地区の課題

ま　と　め

大阪府立大学人間社会学部 准教授 小野 達也

(1) 孤立・孤独死を巡る地域福祉の状況

今回の取り組みは、公営集合住宅における孤立や孤独死に焦点をあてたものである。まず、こうした取り組みを地域福祉の動向とのかかわりで整理しておこう。

こうした問題の背景には、(特に高齢者)一人暮らし世帯の増加や、近隣関係の希薄化があるのは事実である。ただし、別の面から言えば一人で住み、孤立していても「生活」できるのが現代の都市社会である。それはある種の「便利な社会」であり、隣近所とのつながりを必ずしも必要としない。こうした前提があって、そこで高齢化し、家族とのつながりもなく、地域のつながりもなく、制度とのつながりもない状態で亡くなる人が増えたがゆえに問題化したのである。そもそも今の社会の仕組みが、孤立しうるようにできているのであり、したがってこの問題に取り組むことは、非常に難しい。

孤独死はこれまでの死に方とは異なる性質をもつ。かつてであれば、家族とのつながりの中で死を迎える、その中で弔われてきた。また、病院や入所型の施設で死を迎える場合も、さまざまな人々のかかわりがある。孤独死は、家族という親密圏をはみ出し、病院や施設という制度的な枠組みからはみ出したところに生じている。そしてその死は、誰かに発見されない限り「孤独死」として認知されない。その発見にかかわるのは、多くの場合地域の人々となる。家族でもなく、公的な制度でもない、地域社会に発見され、そこでの対応が求められるのである。

孤独死は地域で生じている。これは、死そのものよりも、生きている時のつながりの問題になる。死ということ自体は避けられない。ひとりで死ぬことは誰にでもあります。問題は、そのあとにくる。誰にも知らないまま長い時間がすぎないようにするにはどうすればよいのか。あるいは、その前にある。孤独死に至らずに、何らかのつながりを保つにはどうすればよいのだろうか。

社会福祉で、社会的排除にかかわって孤立や孤独死という問題が意識されたのは、2000年の報告からである(「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書)。社会のつながりが弱まり、社会制度の隙間に落ちる人が生じてきている、という指摘がされた。こうした状況が地域で生じていた。これは、単に貧困やケアサービスの問題にとどまらない。それに対してどのような対応ができるのか。2008年の報告(これから地域福祉のあり方に関する研究会報告書)では、小地域に期待を寄せている。公的なサービスだけでは対応不可能な問題への地域活動が求められているのである。ここでの公的なサービスだけでは対応できない問題には「孤独死等身近でなければ早期発見が困難な問題」が含まれている。地域福祉はこうした問題への、対応が求められる時代になったのである。

(2) 楠風台地区の課題

調査結果の特徴的な点を見ておこう。

まず、世帯状況については、一人暮らし、および、二人暮らしの世帯だけでほぼ8割を占めている。この家族構造では、何か生じた際の家族での問題解決には限界があるだろう。また、年齢が高まるにつれて、一人暮らしの割合も高くなる。高齢の一人暮らしでは生活問題が生じやすく、生じた場合の対応も難しくなることが考えられる。

「生活の中で不自由に感じていること」として階段昇降、買い物、病院への通院ということが上位を

占めている。特に買い物について4割ほどの人があげているのが特徴である。ここには地域性が反映していると考えられる。これらの項目は高齢になるほどその割合も高くなっている。身体的な衰えにより移動に関して、不自由を感じていると考えられる。この点は、対応を考える際にも、移動ということについて配慮すべきであるということを示唆する。

「生活の中の不安や悩み」は8割程度の人から出されている。全体的には、健康問題や老後問題の数値が高い。健康や老後に関して60代の数値が高くなっていることが目を引く。60歳未満では2割の方が自分の仕事をあげている。生活の不安や悩みは世代によって多少違っている。

日常生活の中で、「あつたらしいいな」と思うサービスに対して、特になしという回答と不明を合わせて約6割程度になる。これは、生活の不安や悩みの割合に比すれば、高い数字である。その理由として、ここで聞くのはあくまで日常生活の中の、「比較的簡易」なサービスであり、健康、老後、家計、仕事という項目の問題解決には直接つながりにくい（ととらえられた）ということがあるかも知れない。だとすれば、そこで解決できないような健康、老後等の問題をどのようにするのだろうかという疑問が残る。もうひとつ、ここで提供するサービスは生活の不安や悩みを直接解決することは難しいかもしれないが、解決への入り口になる可能性がある、ということである。問題解決への導入として日常生活中のサービスを位置づけることはできるだろう。その点からすれば、気軽に相談できる場や地域で集える場が上位を占めていることは了解できよう。また、家の手助けが1割の方から出ている。特に高齢者に多い。こうした具体的なサービスの必要性が示されている。

「ご近所や自治会との付き合いについて」で注目されるのは、「近所付き合いはしていない」という2割程度の人々である。これに、ほんの少しだけ、あるいは、形式的にだけご近所や自治会とかかわっているという人を含めれば、かなりの割合になってくるだろう。ちなみに近所づきあいをしていないのは高齢になるほど割合が高まり、また、世帯別では一人暮らし世帯が最も多い。高齢で、一人暮らしで、近所づきあいもしていないというすべての条件がそろう場合には、かなり注意が必要となってこよう。

「緊急時などに頼りにする人について」では、同居か別居かはともかくとして配偶者や子どもという家族の割合がやはり高い。しかし、近所の人、自治会の人、民生委員、知人など、近隣・友人関係も一定程度あるし、わずかながらも市の関係者や福祉サービス事業者も出されている。なかでも自治会の人が3割程度あり、同居の配偶者よりも高い割合であることが注目される。だが、ここでのもっとも重要な課題は、緊急時という強いニーズがある場合に、それが誰であろうと頼れる人がいるか、否か、という点である。そこからすれば、約8%の人たちには、頼れる人がいない。こうした人々は、この状態が解消されないのであれば、個別の対応が必要となってこよう。また、そこまでリスクが高くなくても、頼る人との距離が遠かったり、時間がかかったりする場合などにも対応策があればよいのだろうし、一つだけではなくいくつもの頼る先をつくっていけばより安心は高まるだろう。

3. 今後の取り組み

(1) 今後の地域での取り組みの視点

(2) 具体的な提案

(1) 今後の地域での取り組みの視点

取り組んでいく視点として次の4点をあげる。

①地域福祉の課題として考える

孤立や孤独死という現象を、個人の問題、あるいは公的なサービスだけで対応すべき問題としないで、地域（福祉）の問題として考えることを改めて確認したい。分野的には、健康や医療、貧困、ケア、防災などにまたがるが、タテ割りに見ているだけではそれぞれの部分をとらえるのに過ぎない。地域福祉という視点を導入することで、さまざまつながりの問題が見え、住民のかかわりというアプローチを開拓できる。地域には、家族や行政、あるいは市場だけで解決できない問題がある。孤立や孤独死がまさにそれである。それを問題として取り上げない、という選択もあるが、同じ地域に住むものとして、よりよい地域社会をつくろうとすれば、その問題は避けて通れない。地域で生じた問題を地域で解決していくこうするのが（もちろん地域だけで解決する必要はないが）地域福祉の立場である。

②生活世界からの声をもとにした取り組み

集合住宅の問題に対して、アンケートや意見交換によって、そこに住む人たちから様々な声を出していただいた。どのような取り組みを行うにせよ、まず、こうした生活世界からの声を参考しなくてはならない。もちろん、健康、医療、防犯、防災、ケア等様々な専門家の立場から問題解決のアイディアはあるだろう。しかし、地域での取り組みでは、こうしたそれぞれの専門的システムに住民を当てはめるのではなく、住民の生活世界からの声に即して、こうした専門的手法が使われるべきである。この順番を逆にしては、地域福祉は進まない。したがって、取り組みにしても、例えば気軽に相談できる場や地域で集まる場などの要望が示されているのである。これをどのように（どのようなかたちで）実現していくのかが問われる。

③「～しなければならない」だけでは続けられない

孤立や孤独死には強いニーズがある。そのために孤立をなくそう、とか、ひとりの孤独死も出さない、という目標は重要である。だが、こうした問題を住民活動で取り組む時には、「～しなければならない」という義務感だけでは、続けるのは難しい。地域活動は、利潤にもとづくのではなく、強制によるものでもない。地域社会自体が、こうしたことこそぐわない場である。したがって活動を継続するため、創意や工夫が重要となる。例えば見守り活動やサロン活動は、こうした問題に有効な活動であるが、それをどのように進めるのか、という点に配慮が必要となる。でなければ、見守りが監視的になってしまったり、サロンが義務的な場になってしまったりする（地域での活動には、人権への配慮という課題がついてまわる）。利用者も活動者も互いに楽しめる、喜べる場（活動）をいかにつくるかが問われている。その意味では、その人に会うことが喜びとなるような見守りや、そこに行くことが楽しみになるようなサロン活動という魅力的な地域福祉活動が求められる。

④地域の特性に応じた取り組み

公営集合住宅といつても、実際にはそれぞれの地域性がある。地域の環境、住民層、活用できる社会資源、などがそれぞれ違っている。（エレベーターのある集合住宅では階段昇降はさほど問題にならないが、それがない場合には高齢者にとって大きな問題となる。）したがってそこで問題も違えば、取り組み方も異なってくる。先駆的な取り組みを学ぶことは参考になるが、それをそのまま当てはめるのではなく、地域に応じたかたちで適用を考えることになる。

- 1) 地域の問題や条件を把握する。
- 2) 地域にとって必要な取り組みを明確にする。
- 3) 地域の有する条件の中で取り組みの方法を考える、
　　という展開となるだろう。それができれば、その方法はその地域なりのものとなっていき、地域のあらたな特徴となるだろう。

(2) 具体的な提案

① 「ふれあいリビング」事業で地域に新しい活動拠点が誕生

府営楠風台地区では、「ふれあいリビング」事業開始に伴う新しい福祉活動拠点の建設が来年度予定されている。これまで老朽化した集会所で、「血圧測定」や「ふれあい喫茶」「ふれあいもちつき大会」などの取り組みを通じて、地域住民の健康管理や交流・見守りなどが行われてきたが、「ふれあいリビング」事業で新しい拠点を得ることによって、従来の活動の量的な面や質的な発展の可能性が生まれている。

今までの活動の中で培われてきた地域の福祉力が、「ふれあいリビング」事業や新しい活動拠点のハードとうまく融合し、地域住民の安心・安全な生活を守る活動がさらに発展していくことが期待できる。

② 赤い布運動の継続

昨年の11月から実施されているこの運動は、実際に地域内で起きた孤独死の事例の教訓から実施されているもので、活動開始以後は、孤独死をはじめ盗難被害など1件も発生していないことや、この運動が地域住民に定着しつつあることなどから今後も継続することにより、地域での孤独死防止の日常的な見守り活動のベースとして、さらに定着をはかることが期待されている。

③ ふれあい喫茶(血圧測定)の開催

調査結果からも、気軽に相談できる場、集える場がほしいという要望が強いが、「ふれあいリビング」事業開始に伴う新しい福祉活動拠点での新しい展開が期待される。

現在の利用者は30人程だが、もっと利用者を増やす工夫や、参加していない人に焦点をあてる取り組みも必要になってくると思われる。

現在は医療との連携で進められているが、健康や介護の専門相談には、医師会や福祉施設、介護事業所の専門性を提供してもらうとか、家事支援が必要であるなら広域で展開しているNPOやボランティアグループの出前サービスをお願いするなど、外部の団体、組織、専門機関との連携・協働が日常生活の課題の解決に向けて一定の役割を發揮してもらえないか、また必要な支援組織をつくっていくことも視野に入れて、研究していく価値がある。

④ 府社協の今後の取り組みについて

府社協として、府内の市町村にある集合住宅の共通課題について、以下の点を重点的に研究し、今後の府内全体の孤立・孤独死の予防活動に反映していきたい。

- 1) 個人情報に関する課題をどうクリアするか
- 2) 緊急時の対応のしくみの研究（地域包括支援センター等と地元自治会との連携等）
- 3) 地域が集う拠点の機能・あり方

5. 資料編

- ・普段の生活での困りごとアンケート調査票
- ・普段の生活での困りごとアンケート調査単純集計結果
- ・普段の生活での困りごとアンケート調査 問12 自由記載欄まとめ
- ・府営住宅「要援護者見守りシステム」のあり方調査意見交換会
- ・ふれあい喫茶（血圧測定）
- ・もちつき大会 案内ビラ
- ・大阪府社協機関紙「福祉おおさか」（平成21年3月1日発行）

平成20年12月1日

府営楠風台住宅にお住まいの皆様

大阪府住宅まちづくり部住宅経営室住宅管理課

『普段の生活での困りごとアンケート』のご協力について（ご依頼）

大阪府（住宅管理課）では、福祉関係機関と連携のもと、府営住宅の管理を通じて地域の皆さまが安心して生活が出来るよう、地域福祉の更なる発展につながる方策について検討しております。

この度、楠風台住宅にお住まいの皆様を対象としたアンケートを実施させていただき、皆さま一人ひとりが楠風台住宅にどんな思いがあり、どんなまちにしたいか、普段の生活で何に困っているのかなどを総合的にとらえ、今後の福祉のまちづくりの発展に生かしていくことを考えております。

ご多忙の折、大変恐縮ですが趣旨に賛同頂き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

アンケートのとり扱いについて

- アンケートの回答内容は目的以外に使用しません。
- アンケートの回答は研究協力機関に集計・分析を依頼する為データを提供しますが個人のお名前が特定されること、また公表されることは一切ありません。個人情報の保護を最優先します。
- 回収した回答用紙は厳重に保管し、集計後は確実に廃棄いたします。

アンケート回収方法

- 同封の封筒に入れ、封をして12月12日（金）までに班長へ提出いただきますようお願い致します。

実施主体

- 大阪府住宅まちづくり部住宅経営室住宅管理課

実施協力団体

- 楠風台住宅自治会

研究等協力機関

- 富田林市役所子育て福祉部地域福祉課 ○ 大阪市立大学大学院看護学研究科
- 大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科
- 富田林市社会福祉協議会・大阪府社会福祉協議会
- 大阪府健康福祉部高齢介護室

お問い合わせ先

大阪府住宅まちづくり部住宅経営室住宅管理課推進グループ

〒540-570 大阪市中央区大手前2丁目

電話06-6944-6825 FAX06-6944-6826

(1) あなたご自身について伺います。

1. 年齢 () 歳代 _____

2. 性別 ①男性 ②女性 _____

3. 世帯状況 ①ひとり暮らし ②ふたり暮らし ③その他

(同居者について下枠の中のあてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ① 配偶者 | ② 子ども（子どもの配偶者も含む） |
| ③ 父親（配偶者の父親も含む） | ④ 母親（配偶者の母親も含む） |
| ⑤ 孫 | ⑥ 祖父母（配偶者の祖父母も含む） |
| ⑦ 兄弟姉妹 | ⑧ その他（具体的に：) |

(2) あなたとあなたのご家族の健康状態について伺います。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|--|
| ① 健康である | ② 治療の必要はないが、体調はすぐれない者がいる |
| ③ 治療中の病気（ケガ）があり通院している者がいる | ④ 治療はしていない病気（ケガ）がある者がいる |
| ⑤ 常時、介護を必要とする者がいる | ⑥ 障がい者手帳を持っている者がいる
（障がい種別： 障がい等級：) |
| ⑦ その他（具体的に：) | |

(3) あなたのご家族における行政サービスの利用の有無について伺います。

(あてはまるものいずれかに○)

（例）：配食サービス、医療費助成、高齢者用電話、緊急通報システムなど

- | | |
|----------|-----------|
| ① 利用している | ② 利用していない |
|----------|-----------|

(4) あなたのご家族における介護保険サービスの利用の有無について伺います。

(あてはまるものいずれかに○)

（例）：ホームヘルプサービス、訪問入浴、デイサービス、福祉用具レンタル、住宅改修など

- | | |
|----------|-----------|
| ① 利用している | ② 利用していない |
|----------|-----------|

(5) あなたのご家族における障がい者福祉サービスの利用の有無について伺います。

(あてはまるものいずれかに○)

（例）：ガイドヘルプサービス、補装具の交付、日常生活用具の給付など

- | | |
|----------|-----------|
| ① 利用している | ② 利用していない |
|----------|-----------|

(6) あなたのご家族が普段の生活のなかで不自由に感じている事について伺います。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------|-----------|
| ① 買い物 | ② 食事作り |
| ③ 食事の後片付け | ④ 洗濯や掃除 |
| ⑤ ゴミ出し | ⑥ 入浴 |
| ⑦ 服薬管理 | ⑧ 通院などの外出 |
| ⑨ ご近所とのお付き合い | ⑩ 同居者の介護 |
| ⑪ 金銭管理や財産管理 | ⑫ 階段の上り下り |
| ⑬ 特にない | |
| ⑭ その他（具体的に：） | |

(7) あなたのご家族の日常の生活のなかでの不安や悩みについて伺います。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|------------------|
| ① 自分の健康のこと | ② 家族の健康のこと |
| ③ 自分の老後のこと | ④ 家族の老後のこと |
| ⑤ 子育てに関するここと | ⑥ 子どもの教育や将来のこと |
| ⑦ 看護や介護のこと | ⑧ 家計や経済的なこと |
| ⑨ 自分の仕事のこと | ⑩ 家族の仕事のこと |
| ⑪ 家族内の人間関係のこと | ⑫ 地域の安全のこと |
| ⑬ 隣近所との人間関係のこと | ⑭ 人権などに関するここと |
| ⑮ 災害に関するここと | ⑯ 特に不安や悩みは感じていない |
| ⑰ その他（具体的に：） | |

(8) 日常の生活のなかで、あつたらいいなと思うサービスについて伺います。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ① 気軽に悩みを相談できる場がほしい | ② 子育ての手助け（保育、サークル） |
| ③ 地域に集える場所がほしい | ④ 通訳サービス |
| ⑤ 日本語教室を開設してほしい | ⑥ 家事の手助け（食事作り、買い物） |
| ⑦ 簡単な大工仕事 | |
| ⑧ 住宅管理者がサービスを提供してほしい | |
| （具体内容： | |
| ⑨ 特にない | |
| ⑩ その他（具体的に：） | |

(9) ご近所や自治会等とのお付き合いについて伺います。

(あてはまるものすべてに○)

- ① 家族のなかに、近所の人とよく行き来している者がいる
- ② 家族のなかに、近所の人と会えば親しく話をする者がいる
- ③ あいさつ程度がほとんど
- ④ 自治会に加入している
- ⑤ 家族のなかに、自治会の親睦行事に参加している者がいる
- ⑥ 家族のなかに、清掃活動などの輪番制の当番を引き受けている者がいる
- ⑦ 家族のなかに、自治会の役員や民生委員、地区福祉委員に就任している者がいる
- ⑧ 家族のなかに、担当の民生委員を知っている者がいる
- ⑨ 家族のなかに、担当の地区福祉委員を知っている者がいる
- ⑩ 近所づきあいはしていない
『近所づきあいはしていない理由（あてはまるものすべてに○）』
 - ① 人間関係がわざらわしい ② 日程や時間があわない
 - ③ 体調が悪くて参加できない ④ 興味・関心がない
 - ⑤ 文化や言葉に違いがあるから

(10) 緊急時など頼りにする人について伺います。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------|---------------|
| ① 同居の夫・妻 | ② 別居の夫・妻 |
| ③ 同居の子ども | ④ 別居の子ども |
| ⑤ 子ども以外の親族 | ⑥ 近所の人 |
| ⑦ 自治会の人 | ⑧ 民生委員・地区福祉委員 |
| ⑨ 友人・知人 | ⑩ 市の関係機関 |
| ⑪ 福祉サービス事業者 | ⑫ 頼りにする人はいない |
| ⑬ その他 () | |

(11) (10) の問い合わせ最も近いところにお住まいの方に連絡した場合、駆けつけるのにどれくらいの時間がかかりますか。 (あてはまるもの1つに○)

- | | |
|-----------|---------|
| ① 30分以内 | ② 1時間以内 |
| ③ 2~3時間以内 | ④ 3時間以上 |

(12) 普段の生活のなかでの困り事や悩み事をご記入ください。
(どんなことでも結構です。)

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

楠風台住宅集計

大阪府178

性別 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	男性	71	39.9	42.5
2	女性	96	53.9	57.5
	不明	11	6.2	
	サンプル数 (%ペース)	178	100.0	167

世帯状況(3) (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ひとり暮らし	92	51.7	54.8
2	二人暮らし	55	30.9	32.7
3	その他	21	11.8	12.5
	不明	10	5.6	
	サンプル数 (%ペース)	178	100.0	168

健康状態 (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	健康	58	32.6	36.3
2	治療の必要はないが体調不良	19	10.7	11.9
3	治療中の疾病があり通院中	65	36.5	40.6
4	治療はしていない疾病者がいる	9	5.1	5.6
5	常時介護を要する人がいる	8	4.5	5.0
6	障害手帳所持者がいる	32	18.0	20.0
7	その他	8	4.5	5.0
	不明	18	10.1	
	サンプル数 (%ペース)	178	100.0	160

行政サービス利用の有無 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	利用している	23	12.9	14.6
2	利用していない	134	75.3	85.4
	不明	21	11.8	
	サンプル数 (%ペース)	178	100.0	157

介護保険サービス利用の有無 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	利用している	14	7.9	9.1
2	利用していない	140	78.7	90.9
	不明	24	13.5	
	サンプル数 (%ペース)	178	100.0	154

誰がいき者福祉サービス利用の有無 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	利用している	17	9.6	11.0
2	利用していない	138	77.5	89.0
	不明	23	12.9	
	サンプル数 (%ペース)	178	100.0	155

大阪府178

生活上の不自由の状況 (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	買い物	70	39.3	45.8
2	食事作り	21	11.8	13.7
3	食事の後片付け	10	5.6	6.5
4	洗濯・掃除	20	11.2	13.1
5	ゴミ出し	15	8.4	9.8
6	入浴	15	8.4	9.8
7	服薬管理	3	1.7	2.0
8	通院などの外出	29	16.3	19.0
9	近所との付き合い	16	9.0	10.5
10	同居者の介護	2	1.1	1.3
11	金銭管理・財産管理	7	3.9	4.6
12	階段昇降	49	27.5	32.0
13	特になし	45	25.3	29.4
14	その他	12	6.7	7.8
	不明	25	14.0	
	サンプル数 (%ペース)	178	100.0	153

生活上の不安や悩み (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自分の健康	93	52.2	60.4
2	家族の健康	41	23.0	26.6
3	自分の老後	79	44.4	51.3
4	家族の老後	31	17.4	20.1
5	子育て	2	1.1	1.3
6	子どもの教育や将来	9	5.1	5.8
7	看護や介護	23	12.9	14.9
8	家計や経済的問題	54	30.3	35.1
9	自分の仕事	15	8.4	9.7
10	家族の仕事	10	5.6	6.5
11	家族内の人間関係	5	2.8	3.2
12	地域の安全	26	14.6	16.9
13	近隣との人間関係	18	10.1	11.7
14	人権	4	2.2	2.6
15	災害	32	18.0	20.8
16	特になし	15	8.4	9.7
17	その他	9	5.1	5.8
	不明	24	13.5	
	サンプル数 (%ペース)	178	100.0	154

「あつたらいいな」と思うサービス (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	気軽に相談できる場	31	17.4	23.7
2	子育ての手助け	3	1.7	2.3
3	地域で集まる場所	18	10.1	13.7
4	通訳サービス	1	0.6	0.8
5	日本語教室の開設	0	0.0	0.0
6	家事の手助け	22	12.4	16.8
7	簡単な大工仕事	8	4.5	6.1
8	住宅管理者のサービス提供	15	8.4	11.5
9	特になし	58	32.6	44.3
10	その他	11	6.2	8.4
	不明	47	26.4	
	サンプル数 (%ペース)	178	100.0	131

大阪府178

住宅管理者のサービス提供の記載 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	あり	5	2.8	33.3
2	なし	10	5.6	66.7
	不明	163	91.6	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	15

近所や自治会との付き合い状況 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	近所の人とよく行き来する	46	25.8	27.9
2	近所の人と親しく話す	73	41.0	44.2
3	近所の人とは挨拶程度	72	40.4	43.6
4	自治会に加入している	126	70.8	76.4
5	自治会の親睦行事に参加	45	25.3	27.3
6	輪番制の当番を引き受ける	51	28.7	30.9
7	自治会等の役員・委員に就任	20	11.2	12.1
8	担当の民生委員を知っている	38	21.3	23.0
9	担当地区福祉委員を知っている	34	19.1	20.6
10	近所付き合いはしていない	37	20.8	22.4
	不明	13	7.3	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	165

近所付き合いをしていない理由 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	人間関係が煩わしい	13	7.3	36.1
2	日程や時間が合わない	15	8.4	41.7
3	体調が悪く参加不可	10	5.6	27.8
4	興味・関心がない	6	3.4	16.7
5	文化や言葉の違いがある	1	0.6	2.8
	不明	142	79.8	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	36

緊急時に頼る人 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	同居の配偶者	44	24.7	26.2
2	別居の配偶者	2	1.1	1.2
3	同居の子ども	21	11.8	12.5
4	別居の子ども	56	31.5	33.3
5	子ども以外の親族	29	16.3	17.3
6	近所の人	42	23.6	25.0
7	自治会の人	55	30.9	32.7
8	民生委員・地区福祉委員	23	12.9	13.7
9	友人・知人	43	24.2	25.6
10	市の関係機関	15	8.4	8.9
11	福祉サービス事業者	6	3.4	3.6
12	頼りにする人はいない	14	7.9	8.3
13	その他	5	2.8	3.0
	不明	10	5.6	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	168

大阪府178

緊急時に頼る人の距離 (時間) (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	30分以内	93	52.2	62.0
2	1時間以内	24	13.5	16.0
3	2~3時間以内	16	9.0	10.7
4	3時間以上	17	9.6	11.3
	不明	28	15.7	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	150

生活上の困りごとや悩みの記載 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	記入あり	67	37.6	37.6
2	記入なし	111	62.4	62.4
	不明	0	0.0	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	178

年代 (7) (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	20歳代	2	1.1	1.2
2	30歳代	10	5.6	5.9
3	40歳代	4	2.2	2.4
4	50歳代	20	11.2	11.8
5	60歳代	67	37.6	39.4
6	70歳代	56	31.5	32.9
7	80歳代	11	6.2	6.5
	不明	8	4.5	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	170

年代 (4) (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	60歳未満	36	20.2	21.2
2	60歳代	67	37.6	39.4
3	70歳代	56	31.5	32.9
4	80歳代	11	6.2	6.5
	不明	8	4.5	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	170

世帯構成(4) (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	一人暮らし	92	51.7	54.8
2	夫婦世帯	36	20.2	21.4
3	その他の二人暮らし	19	10.7	11.3
4	その他の団居世帯	21	11.8	12.5
	不明	10	5.6	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	168

誰がい手帳の種類 (MA) (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	身体障がい者手帳	27	15.2	93.1
2	療育手帳	1	0.6	3.4
3	精神障がい者保健福祉手帳	3	1.7	10.3
	不明	149	83.7	
	サンプル数 (%ベース)	178	100.0	29

大阪府178

障がい者手帳の等級 (MA) (WA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1級	7	3.9	25.0
2	2級	5	2.8	17.9
3	3級	3	1.7	10.7
4	4級	7	3.9	25.0
5	5級	1	0.6	3.6
6	6級	3	1.7	10.7
7A		1	0.6	3.6
8B		0	0.0	0.0
9C		0	0.0	0.0
10	精神障がい者保健福祉手帳	3	1.7	10.7
	不明	150	84.3	
	サンプル数 (96% -s)	178	100.0	28

サービスの利用の数 (3) (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	2種類以上利用	14	7.9	8.9
2	1種類利用	20	11.2	12.7
3	利用していない	124	69.7	78.5
	不明	20	11.2	
	サンプル数 (96% -s)	178	100.0	158

サービス利用の有無 (2) (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	利用している	34	19.1	21.5
2	利用していない	124	69.7	78.5
	不明	20	11.2	
	サンプル数 (96% -s)	178	100.0	158

健康 (2) (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	健康である	58	32.6	36.0
2	健康ではない	103	57.9	64.0
	不明	17	9.6	
	サンプル数 (96% -s)	178	100.0	161

富田林市楠風台調査自由記載欄まとめ

	合計	割合	順位
日常生活(不安・悩み等)	33	48%	1
要望・提案	15	22%	2
経済問題	8	12%	3
障害問題	3	4%	5
健康問題	7	10%	4
介護・介護保険	3	4%	5
合計	69	100%	

日常生活(不安・悩み等)

- ・悩みごとはたくさんある
- ・孤独死を何件か見て心配
- ・自治会の役員になるのがいや
- ・若い人も入居してほしい
- ・仕事をしているので地域の行事に参加できない
- ・階下の家の騒音
- ・悩みを解決してくれる所がない
- ・トイレ改装時の不適合(便器)
- ・お風呂の段が高すぎる
- ・家具を廊下に出しっぱなし
- ・水周りが汚いし臭う
- ・段ボールの回収日を知りたい
- ・仕事に行くのに遠い
- ・年金相談しているが社会保険事務所から返事がない
- ・朝5時から洗濯機を使う人がいる
- ・物干し竿の音がうるさい
- ・宗教がらみの人が多い
- ・ベランダの出入り口が狭い
- ・郵便受けに沢山のチラシ

経済問題

- ・毎年、病院代に困る
- ・年金だけでは不安
- ・タクシー料金が高い
- ・病院代が高く、年金だけでは不安
- ・とても年金だけでは生活できない

障害問題

- ・身体障害で手助けがいります
- ・目が不自由です
- ・左足関節装具をしています

健康問題

- ・糖尿病で定期的に通院しています
- ・妻が最近、腰・足の不調を訴え、自分自身も糖尿病で体調が悪い
- ・主人が脳梗塞で治療中
- ・病気が早く治ってほしい
- ・腰が痛く足がしづれ、両手が使えない
- ・体が悪くてしんどい
- ・心臓が悪い

要望・提案

- ・団地内にバスの乗り場を
- ・住宅バス
- ・エレベーターの新設
- ・高齢者の交通費の減額制度

介護・介護保険

- ・介護サービスを受ける心配
- ・介護保険料を年金から引かれるのは苦しい
- ・何事にも参加したいですが、病人を介護しているのでうまくいかない



府営住宅「要援護者見守りシステム」のあり方調査 意見交換会

月の血圧測定日のお知らせ

月　　日(月)正午十一時より

十二時四十五分まで



集会所にて コーヒー・紅茶あります。(無料)

皆様おわざいの上、是非「来場下さる。

※尚、「来場の節は健康手帳を」「持参下さる。

又、未だ健康手帳をお持ちでない方は「来場ください。
れば発行いたしますので」「利用下さい。

府営楠風台地区福祉委員会

第7回ふれあい もちつき大会のお知らせ

日時 12月14日（日）

場所 府営楠風台集会場

もちつき 8時から

ぜんざい会 12時から

※なくなりしだい終了します。

※餅は少量ながら各戸に配布致します。

※この機会にもちつきをぜひ体験して下さい。

※多数ご参加お待ちしています。

※お手伝い大歓迎です。

（雨天決行）



府営楠風台地区福祉委員会
委員一同

地域のひろば

“安心と安全の福祉のまちづくりを”

大阪府社協 地域福祉部
TEL 06-6762-9473 FAX 06-6762-9487

地域における孤立・ 孤独死を防ぐために

一人と人とのつながりを
強めよう！

府社協は2月16日、国際交流センターで「小地域ネットワークリーダー研修会」を開催。地区福委員会委員長や小地域ネットワーク活動リーダー、民生委員、市町村社協職員など約890人が参加しました。

高齢者や中高年者等の孤立・孤独死は、全国的な社会問題であります。また、「死」を通して「生」（＝地域の中でどう生きるのか）を考えることの大切さを訴えました。

府社協は2月16日、国際交流センターで「小地域ネットワークリーダー研修会」を開催。地区福委員会委員長や小地域ネットワーク活動リーダー研修会」を開催。地区福委員会委員長や小地域ネットワーク活動リーダー、民生委員、市町村社協職員など約890人が参加しました。



コーディネーターの小野達也氏

困難であり、深刻な課題となっています。

う三軒隣での呼びかけを進めています。また、「死」を通して「生」（＝地域の中でどう生きるのか）を考えることの大切さを訴えました。

続いて公営集合住宅における要援護者見守りシステムを検討

を訴えました。

まとめとして小野氏より、孤

立・孤独死を防ぐには住民が気

軽に相談できる場と集える場が

必要であり、人と人とのつなが

りや孤独死が起きた場合にそれ

を地域の問題と具体的支援につ

いて報告。

2地区の公営集合住宅で実施

した住民の日常生活に関するアンケート結果より、住民はと

くに健康面や老後、経済面に関

して様々な不安と心配を抱えて

いる現状や、集合住宅内に気軽

に相談できる場や集まる場を強く求めていることが明らかになりました。このことから、佐竹

台地区では誰もが気軽に参加でき、相談員（CSW）による巡回相談を伴った常設サロンの開設、清水町地区では専門職による定期的な相談日の開設が検討されています。また、自宅に引

動の具体案を出していくことの重要性が強調され、孤独死問題に対する参加者の認識を深める機会となりました。

民児協事務局のある市役所のサーバーを活用し、あらかじめ登録された民生委員の携帯電話アドレスに情報を一斉送信でき

るようになりました。

同民児協では、今後の仕組みを用い、事業の開催案内や、子どもの見守りに役立つ情報の発信など、災害以外の分野においても幅広く活用していく予定です。

災害時の連絡を 迅速に

— 民生委員全員に携帯電話で緊急連絡 —

最初に千葉県松戸市常盤平地区・中沢卓実自治会長より孤独死ゼロに向けた実践を報告。常盤平地区では8年前に死後3年を経過した白骨死体が発見されたことを契機に地区社協・民生委員・自治会の三者を中心に行政等と一緒にして孤独死の課題に取り組んでいます。孤独死を地域福祉の課題と位置づけ、その予防には、日常生活における人と人とのつながりが重要としてあさつ推進標語を定めるなど住民同士のあいさつや向こ



「死」を通して「生」を考えることの大切さを訴える中沢卓実自治会長

きこもりがちな住民は、地区福委員や民生委員などが積極的にお世話役となつて引っ越し道筋をつくることが必要との

発言がありました。

まとめとして小野氏より、孤

立・孤独死を防ぐには住民が気

軽に相談できる場と集える場が

必要であり、人と人とのつなが

りや孤独死が起きた場合にそれ

を地域の問題と具体的支援につ

いて報告。

2地区の公営集合住宅で実施

した住民の日常生活に関するアンケート結果より、住民はと

くに健康面や老後、経済面に関

して様々な不安と心配を抱えて

いる現状や、集合住宅内に気軽

に相談できる場や集まる場を強く求めていることが明らかになりました。このことから、佐竹

台地区では誰もが気軽に参加でき、相談員（CSW）による巡回相談を伴った常設サロンの開設、清水町地区では専門職による定期的な相談日の開設が検討されています。また、自宅に引

動の具体案を出していくことの重要性が強調され、孤独死問題に対する参加者の認識を深める機会となりました。

民児協事務局のある市役所のサーバーを活用し、あらかじめ登録された民生委員の携帯電話アドレスに情報を一齊送信でき

るようになりました。

同民児協では、今後の仕組みを用い、事業の開催案内や、子どもの見守りに役立つ情報の発信など、災害以外の分野においても幅広く活用していく予定です。

いろんな「！」をお届けします。

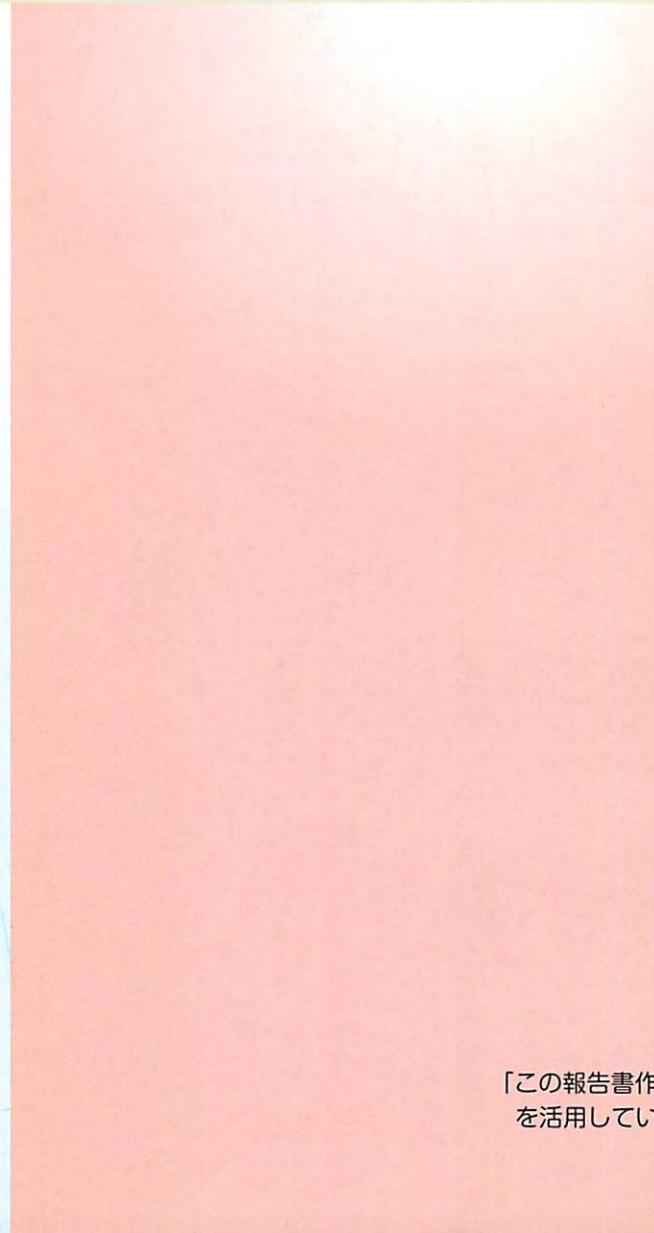
PRINTING OFFICE
P-POST

各種印刷物・販促物の企画・製作
有限会社 ピィポスト
Tel & Fax : 072-258-3348
E-mail : p-post@omoshiro.jp
〒591-8002 堺市北区北花田町4丁113-7

府営住宅「要援護者見守りシステム」のあり方調査報告書

平成 21 年 3 月

発 行	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
分析及び助言	大阪市立大学大学院看護学研究科 教授 曰井 キミカ
まとめ及び助言	大阪府立大学人間社会学部 准教授 小野 達也
協 力	富田林市府営楠風台地区居住者の方々 富田林市府営楠風台地区福祉委員会 富田林市社会福祉協議会
問合わせ先	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 T E L 06-6762-9486 F A X 06-6762-9487



「この報告書作成の一部には、共同募金配分金
を活用しています。」